

R 6 営繕 第 2 三好寮・三好市地域利便性施設（仮称）
三・池田 新築工事建築（2）（担い手確保型）

| 課長 | 副課長 | 課長補佐 | 係長 | 係長 | 課員 | 担当 |
|----|-----|------|----|----|----|----|
| | | | | | | |

図面リスト

| 図面番号 | 図面名 | 図面番号 | 図面名 | 図面番号 | 図面名 | 図面番号 | 図面名 |
|-------|--------------|-------|--------------------------|-------|---------------------|-------|-------------|
| A-000 | 表紙 | A-029 | 家具詳細図 5 | S-001 | 構造設計特記仕様書 (1) | E-001 | 電気設備工事特記仕様書 |
| A-001 | 図面リスト | A-030 | 家具詳細図 6 | S-002 | 構造設計特記仕様書 (2) | E-002 | 屋外電灯設備図 |
| A-002 | 特記仕様書-1 | A-031 | 家具詳細図 7 | S-003 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) | | |
| A-003 | 特記仕様書-2 | A-032 | 家具詳細図 8 | S-004 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2) | | |
| A-004 | 特記仕様書-3 | A-033 | 家具詳細図 9 | S-005 | 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3) | | |
| A-005 | 特記仕様書-4 | A-034 | 部分詳細図 | S-006 | 鉄骨構造標準図 (1) | | |
| A-006 | 特記仕様書-5 | A-035 | 敷地レベル現況配置図 | S-007 | 鉄骨構造標準図 (2) | | |
| A-007 | 特記仕様書-6 | A-036 | 現況縦断面・横断面図 1 | S-008 | 歩廊 基礎伏図、RC部材リスト | | |
| A-008 | 特記仕様書-7 | A-037 | 現況縦断面・横断面図 2 | S-009 | 歩廊 1階柱R階梁伏図 | | |
| A-009 | 特記仕様書-8 | A-038 | 外構配置図(撤去) | S-010 | 歩廊 軸組図 | | |
| A-010 | 特記仕様書-9 | A-039 | 外構詳細図(撤去) | S-011 | 歩廊 鉄骨部材リスト、鉄骨架構詳細図 | | |
| A-011 | 特記仕様書-10 | A-040 | 既存浄化槽躯体改修図 1 | | | | |
| A-012 | 特記仕様書-11 | A-041 | 既存浄化槽躯体改修図 2 | | | | |
| A-013 | 特記仕様書-12 | A-042 | 既存浄化槽躯体改修山留設置図(参考図) | | | | |
| A-014 | 付近見取図 | A-043 | 既存浄化槽詳細図 1 (参考図) | | | | |
| A-015 | サイン外構配置図 | A-044 | 既存浄化槽詳細図 2 (参考図) | | | | |
| A-016 | サイン 1 階配置図 | A-045 | 既存浄化槽詳細図 3 (参考図) | | | | |
| A-017 | サイン 2 階配置図 | A-046 | 外構配置図 1 (新設) | | | | |
| A-018 | サイン 3 階配置図 | A-047 | 外構配置図 2 (新設) | | | | |
| A-019 | サインPH階配置図 | A-048 | 雨水排水計画図・各部詳細図 | | | | |
| A-020 | サイン詳細図 1 | A-049 | 縦断面・横断面図 | | | | |
| A-021 | サイン詳細図 2 | A-050 | 外構詳細図 (1) | | | | |
| A-022 | 1階家具・ユニット配置図 | A-051 | 外構詳細図 (2) | | | | |
| A-023 | 2階家具・ユニット配置図 | A-052 | 外構詳細図 (3) 歩廊 平面詳細図、断面詳細図 | | | | |
| A-024 | 3階家具・ユニット配置図 | A-053 | 外構詳細図 (4) 歩廊 各部詳細図、天井伏図 | | | | |
| A-025 | 家具詳細図 1 | A-054 | 外構詳細図 (5) | | | | |
| A-026 | 家具詳細図 2 | A-055 | 外構詳細図 (6) | | | | |
| A-027 | 家具詳細図 3 | A-056 | 外構詳細図 (7) | | | | |
| A-028 | 家具詳細図 4 | A-057 | 仮設計画図 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

| | | | |
|-------------|---|------------------------|---|
| 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築 (2) | ●図面番号 A-001 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号 株式会社 宮 建築 設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625-5505 (代) |
| | ●図面名 図面リスト | ●縮尺 A1: -/- A3: -/- | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

I. 工事概要

| | |
|---------|--|
| 1. 工事名称 | R 6 営繕 第 2 三好寮・三好市地域利便性施設（仮称） 三・池田 新築工事建築（2）（担い手確保型） |
| 2. 工事場所 | 三好市池田町マチ2182-3, 2183, 2184-2, 2184-5, 2181-18, 2180-9, 2185-12, 2185-30, 2184-2地先市有地、2185-12地先市有地、2180-8 |
| 3. 工事種目 | 工事内容：外構工事、ユニット・家具・サイン工事 |
| 4. その他 | 本工事は、資材価格高騰に対する特例措置について（令和4.12.9建設第686号）に基づく特例措置の対象工事である。 |

II. 建築工事仕様書

| 1章 一般共通事項 | ○印を付した項目を適用する。 |
|--------------|--|
| 項 目 | 特 記 事 項 |
| ① 適用基準 | <p>図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の下記による。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共建築工事標準仕様書（建築工事編） 令和4年版（以下「標仕」という。） 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編） 令和4年版 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編） 令和4年版 建築物解体工事共通仕様書（平成31年版）・同解説 令和2年版 建築工事標準詳細図 令和4年版（以下「標準図」という。） 公共建築設備工事標準図（電気設備工事編） 令和4年版 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編） 令和4年版 敷地調査共通仕様書 令和4年版 <p>また、次の図書（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）を参考とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 建築工事監理指針（令和4年版）（以下「監理指針」という。） 建築改修工事監理指針（令和4年版） 電気設備工事監理指針（令和4年版） 機械設備工事監理指針（令和4年版） |
| ② 優先順位 | <p>設計図書の優先順位は、次の順とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 質問回答書（②から⑤に対するもの） 補足説明書 特記仕様書（営繕工事共通仕様書を含む） 図面 公共建築工事標準仕様書等 |
| ③ 工事実績データの登録 | <p>(1) 受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については受注・変更・しゅん工・訂正時に、工事実績情報サービス（コリンズ）に基づき、工事実績情報として「登録のための確認のお願い」を作成し監督員に提出して内容の確認を受けた上、次の期限までに登録機関に登録しなければならない。</p> <p>(a) 受注時は、契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。</p> <p>(b) 登録内容の変更時は、変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。</p> <p>(c) しゅん工時は、工事しゅん工承認後、土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内とする。</p> <p>(d) 訂正時は、適宜とする。</p> <p>なお、変更登録は工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金額のみの変更場合は原則として登録を必要としない。</p> <p>(2) 受注者は、実績登録完了後、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。</p> <p>なお、変更時としゅん工時の間が10日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。</p> |
| ④ 工程表 | 受注者は、契約書に基づく工程表を契約締結後10日（土曜日、日曜日、祝日等を除く。）以内に提出すること。 |
| ⑤ 工事の着手 | <p>受注者は、設計図書に定めのある場合、又は特別の事情により発注者の承諾があった場合を除き、工事開始日以降30日以内に工事に着手しなければならない。</p> <p>なお、工事開始日とは、契約書に明示した着工の日（特記仕様書において着工の日を別に定めた場合にあつては、その日）をいう。</p> |
| ⑥ 施工計画書等 | <p>◎施工に先立ち、実施工程表、工事の総合計画をまとめた総合施工計画書及び工種別施工計画書並びに施工図等を作成し、監督員に提出し、監督員の承諾を受けること。</p> <p>◎上記の施工計画書には、「地下埋設物等の近接作業に関する事項」を設けること。</p> <p>◎施工図、現寸図、見本等を、工事の施工に先立ち作成し、監督員の承諾を受けること。</p> |
| ⑦ 下請負人の選定 | <p>◎受注者は、本工事の一部を下請に付する場合は、工事の施工に十分な能力と経験を有した者を選定すると共に、徳島県内に主たる営業所を有するものの中から優先して選定するように努めなければならない。</p> <p>なお、請負対象額（設計金額）が1億円以上の工事については、徳島県内に主たる営業所を有するもの以外と下請契約する場合に、県内業者を選定しない理由を記した理由書を事前に監督員に提出しなければならない。</p> |

| 項 目 | 特 記 事 項 |
|-----------------|--|
| | <p>◎受注者は、本工事の全部若しくは一部について、指名停止期間中の有資格業者と下請契約を締結してはならない。（なお、有資格業者とは、建設工事の請負契約に係る一般競争入札及び指名競争入札参加資格審査要綱（昭和58年1月18日徳島県告示第50号）第5条の規定により参加資格の認定を受けた者をいう。）</p> |
| ⑧ 施工体制台帳及び施工体系図 | <p>(1) 施工体制台帳の作成</p> <p>受注者は、下請契約（以下の(3)及び(4)の場合を含む。）を締結した場合は、施工体制台帳及び再下請請負通知書（以下「施工体制台帳」という。）を自らの責任において作成・保存するとともに、施工体制台帳を工事現場に備え置かなければならない。</p> <p>(2) 施工体系図の作成及び揭示</p> <p>受注者は、下請契約（以下の(3)及び(4)の場合を含む。）を締結した場合は、各下請負者の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律に従って、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>(3) 警備業者の記載</p> <p>受注者は、交通誘導警備員を配置するときは、警備業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。</p> <p>(4) 運搬業者の記載</p> <p>受注者は、土砂等を運搬する大型自動車を設置するときは、運搬業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。</p> <p>(5) 施工体制台帳及び施工体系図の提出</p> <p>受注者は、施工体制台帳の写し及び施工体系図の写しを、下請契約を締結したときは下請契約日から、内容に変更が生じたときは変更が生じた日から、いずれも土曜日、日曜日、祝日等を除き10日以内に監督員に提出し、確認を受けなければならない。</p> <p>ただし、提出日について、監督員が承諾したときはこの限りではない。</p> <p>(6) 再下請負通知書を提出する旨の書面の揭示</p> <p>受注者は、再下請負通知書を提出する旨の書面を、工事現場の公衆が見やすい場所に掲示しなければならない。</p> |
| ⑨ 電気保安技術者等 | <p>◎電気保安技術者は次の者とし、必要な資格又は同等の知識及び経験を証明する資料により、監督員の承諾を受けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第1種又は第2種電気工事士の資格を有する者とする。 <p>◎工食用電力設備の保安責任者を関係法令に従って有資格者を定め、監督員に報告すること。</p> |
| ⑩ 施工中の安全確保 | <p>◎工事関係図書及び監督員から指示された事項等については、施工に携わった下請負人にも十分周知徹底すること。</p> <p>◎工事現場における現場代理人、監理技術者、主任技術者の確認のため名札を着用すること。名札には現場代理人、監理技術者、主任技術者の別、氏名、会社名、工事名を記載し、顔写真を添付すること。</p> <p>◎工事現場の安全衛生管理については、労働安全衛生法等関係法令等に従って行うこと。</p> <p>◎工事の施工に伴う災害及び公害の防止は、建築基準法、労働安全衛生法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、建設工事公衆災害防止対策要綱（令和元年9月2日付け国土交通省告示第496号）、建設副産物適正処理推進要綱（平成5年1月12日 建設省建設発第3号）その他関係法令に従い適切に処理すること。</p> <p>◎受注者は、工事の施工箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物について工事（仮囲い等仮設材設置を含む）着手までに調査を行い、「支障物件確認書」を監督員に提出し、監督員の確認を受けてから工事着手すること。</p> <p>◎地下埋設物への影響が予想される場所では、施工に先立ち、原則として試掘を行い、当該埋設物の種類、位置（平面・深さ）、規格、構造等を確認しなければならない。</p> <p>◎受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対し、支障を及ぼさないような措置を施さなければならない。万一、損傷を与えた場合は、ただちに監督員に報告するとともに、施設の運営に支障がないよう、受注者の負担でその都度補修又は補償すること。</p> <p>◎受注者は、重量が100kg以上のものを貨物自動車に積む作業（ロープ掛けの作業及びシート掛けの作業を含む。）又は貨物自動車から卸す作業（ロープ解きの作業及びシート外しの作業を含む。）を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、監督員に報告しなければならない。</p> <p>◎受注者は、機械等を貨物自動車に積み込む作業又は貨物自動車から卸す作業を行う場合は、当該作業を指揮する者を定め、指揮者の合図により行わなければならない。また、作業状況について、写真等の資料資料を整備及び保管し、監督員の請求があつたときは、直ちに提示しなければならない。</p> <p>◎受注者は、輸送経路等において上空施設への接触事故を防止するため、重機回送時の高さ、移動式クレーンのブームの格納、ダンプトラックの架台の下ろし等について、走行前に複数の作業員により確認しなければならない。</p> <p>◎受注者は、トラック（クレーン装置付）を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置（ブームの格納忘れを防止（警報）する装置、ブームの高さを制限する装置等）付きの車両を原則使用しなければならない。なお、使用できない場合は事前に監督員と協議を行うこと。</p> <p>◎休日、夜間に作業を行う時は、事前に「休日・夜間作業届」を監督員に提出すること。</p> <p>◎受注者は、工事期間中安全巡視を行い、工事区域及びその周辺の監視あるいは連絡を行い、安全を確保するとともに工事現場における盗難防止の観点から、資機材の保管状況等についても併せて確認すること。また、監督員から「資機材保管計画書」（自由様式）の提出を求められた場合には、速やかに提出すること。</p> |

| 項 目 | 特 記 事 項 |
|-----------|--|
| | <p>◎受注者は、高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。</p> <p>◎仮囲いを設置する場合は、設置後に「営繕課発注現場安全再確認シート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。</p> <p>◎上下作業や直下階の施設を利用しながらの直上階（天井）のスラブはつり工事は、原則禁止とする。やむを得ず行う場合は、飛来落下の危険を生じるおそれがあるため、適切な防護措置を講じ安全確保を図り施工手順について監督員の承諾を得たうえで、指定された時間に行うこと。</p> <p>◎受注者は、足場を設置する場合は組立、解体時において、作業前に施工手順を確認し、倒壊や資材落下に対する措置を講じなければならない。特に、飛来落下の恐れのある巾木やメッシュシート等の資機材については、足場の上に仮置きせず、設置又は荷下ろしするまでは、番線等により固定を行うこと。また、強風、大雨、大雪等の悪天候のため、作業の実施について危険が予想されるときは、作業を中止すること。</p> <p>◎作業にあたって労働災害、公衆災害の事故リスクと対応方法について県監督員と協議すること。</p> <p>◎既設配管等を破損させた場合の停電、断水等の影響範囲及び破損防止のための対策について関係者と協議すること。</p> <p>◎事故により、停電、断水等が発生することを考慮し、施設休業日に作業するなど、作業日を施設管理者と協議すること。</p> <p>◎給水管近傍の作業で給水管を破損する恐れがある場合は、給水バルブの止水状況を確認するとともに、事故による漏水に備えて直下階や近傍の重要備品について養生や移設について協議すること。</p> |
| ⑪ 交通安全管理 | <p>◎輸送災害の防止</p> <p>受注者は、工用車両による土砂、工用資材、機械等の輸送を伴う場合は、関係機関と打合せを行い、交通安全に関する担当者、輸送経路、輸送期間、輸送方法、輸送担当者、交通誘導員の配置、標識、安全施設等の設置場所その他安全輸送上の事項について計画を立て、災害の防止を図らなければならない。特に、輸送経路にある既設構造物に対して損害を与えるおそれがある場合は、当該物件およびその位置と必要な措置について工事着手前に監督員に報告しなければならない。</p> <p>◎過積載による違法運行の防止</p> <p>受注者は、過積載による違法運行の防止に関し、特に次の事項について留意し、下請負業者を指導すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 積載重量制限を超えた土砂等の積込みは行わないこと さし枠装備車、不表示車は使用しないこと 過積載車両、さし枠装備車、不表示車から土砂等の引き渡しを受けないこと 建設発生土の処理及び骨材の購入に当たっては、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害さないこと <p>・過積載による違法通行により、逮捕または起訴された建設業者は、指名停止措置を講ずる場合がある</p> |
| ⑫ 発生材の処理等 | <p>◎発生材の処理等は、次により適正に行う。</p> <p>(1) 工事による発生材のうち、文化財保護法に基づく物及び有価材と判断される物については、報告及び引き渡しを要する。</p> <p>(2) 上記以外の発生材は、建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律、資材の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進要綱その他関係法令等に従い処理すること。受注者は、工事で発生する産業廃棄物を保管する場合、または自ら運搬する場合等においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の規定を遵守すること。図書に表示のないものについては、監督員に報告し指示を仰ぐこと。</p> <p>(3) 産業廃棄物の種類ごとの処分場については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「産業廃棄物の処理」又は「発生材の処理等」による。</p> <p>(4) 建設発生土の処理については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「建設発生土の処理」による。</p> <p>(5) 解体前に、照明器具、変圧器及び進相コンデンサのPCBの有無を調査し、有れば、監督員の指示に従うこと。</p> <p>(6) 空調機等の整備や撤去処分を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律をはじめとする関係法令に基づき、作業や手続きを行う。家電リサイクル法に該当する機器については、家電リサイクル法により処理すること。</p> <p>(7) 受注者は、建設副産物が搬出される工事にあつては、建設発生土は建設発生土搬出調査（様式3）、産業廃棄物は産業廃棄物管理票（マニフェスト）により、適正に処理されているか確認するとともに、監督員に建設発生土搬出調査を提出しなければならない。なお、監督員等の指示があつた場合は直ちに産業廃棄物管理票の写しを提示しなければならない。</p> <p>◎アスベスト</p> <p>(1) 解体前に大気汚染防止法に基づくアスベスト等の特定建築材料に該当するものが使用されていないか調査し、あれば監督員の指示に従うこと。既存の分析調査結果がある場合は、受注者がその結果を書類等により確認すること。なお、工事内容に変更がある場合においても同様とする。</p> <p>既存の分析調査結果の貸与（あり・なし）。</p> <p>(2) 事前調査を公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）1.5.1及び大気汚染防止法により行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を石綿事前調査結果報告システムにより、労働基準監督署及び自治体に報告すること。監督員へも結果を提出するとともに、その写しを工事の現場に備え置くこと。 調査結果は3年間保存すること。 調査結果の概要を公衆が見やすい場所に掲示すること。 分析によりアスベスト含有調査を行う場合は、JIS A 1481-IIによること。 |

| | | | | |
|--|-------------|---|-------------|---|
| | 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R 6 営繕 第 2 三好寮・三好市地域利便性施設（仮称） 三・池田 新築工事建築（2） | ●図面番号 A-002 | 1 級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505（代） |
| | | ●図面名 特記仕様書-1 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1 級333707 |

| 項目 | 特記事項 |
|------------|--|
| | <p>◎資源の有効な利用の促進に関する法律（以下「資源有効利用促進法」という。）及び建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）に基づく対応は、以下のとおり行うこと。</p> <p>(1) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3.10.25建設省令第19号）第8条で規定される工事又は建設リサイクル法施行令第2条で規定される工事（以下「一定規模以上の工事」という。）において、コンクリート（二次製品を含む。）、土砂、砕石、加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には、（一財）日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム（以下「COBRIS」という。）により再生資源利用計画書を作成し、監督員に提出すること。</p> <p>(2) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係るの促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令（H3.10.25建設省令第20号）第7条で規定される工事又は一定規模以上の工事において、建設発生土、コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合には、COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し、監督員に提出すること。</p> <p>(3) 受注者は、上記計画書を工事現場の見やすい場所に掲示（デジタルサイネージによる掲示も可）すること。</p> <p>(4) 受注者は、上記計画書に変更が生じた場合は、速やかに計画を変更し、その変更の内容を監督員に報告すること。</p> <p>(5) 受注者は、工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し監督員に提出すること。</p> <p>(6) 受注者は、上記計画書及び実施書を工事完成後5年間保存すること。</p> <p>(7) 受注者は、COBRISの入力において、資源の供給元及び搬出する副産物の搬出先について、その施設名、施設の種別及び住所を必ず入力すること。ただし、バージン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。</p> <p>◎建設リサイクル法通知済証の掲示 受注者は、建設リサイクル法に基づく対象建設工事（特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が建設リサイクル法施行令で定める基準以上のもの）においては、工事現場の公衆の見やすい場所に工事着手日までに「建設リサイクル法通知済証」を掲示し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかななければならない。 また、「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全景写真は電子納品の対象書類とし、「徳島県電子納品適用ガイドライン【建築工事編】」に基づき提出すること。なお、「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日までの期間に発注者から支給することとする。</p> <p>◎受領書の交付 受注者は、土砂を再生資源利用計画書に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。</p> <p>◎再生資源利用促進計画書を作成する上での確認事項等 受注者は、再生資源利用促進計画書の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の手続き状況や、搬出先が盛土規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。 また、確認結果は再生資源利用促進計画書に添付し監督員に提出するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。</p> <p>◎建設発生土の運搬を行う者に対する通知 受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするとき、特記に土工事の記載がある場合は「建設発生土の処理」に定められた事項等（搬出先の名称及び所在地、搬出量）と、前項で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。</p> <p>◎建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等 受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画書に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画書に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督員に写しを提出しなければならない。</p> <p>◎本工事に使用する建築材料、設備器材等（以下「建材等」という）は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとする。</p> <p>◎受注者は、建材等の発注の際には、発注前に、品質及び性能に関して記載された工種別施工計画書及びその証明となる資料を監督員へ提出しなければならない。ただし、設計図書に定めるJIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合又はあらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 なお、各専門特記仕様書中、「評価名簿による」と記載されているものは、一般社団法人公共建築協会発行の「建築材料等評価名簿（最新版）」及び「設備器材等評価名簿（最新版）」記載品を指すものとする。</p> <p>◎県産木材の原則使用 (1) 受注者は、工事目的物及び指定仮設で木材を使用する場合並びにコンクリート打設用型枠を使用する場合、原則として県産木材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合にはこの限りでない。 (2) 「県産木材」とは、「徳島県内の森林で育成した木材」のことであり、「徳島県内の森林で育成した木材」とは次のことである。 (a) 徳島県木材認証制度により、県内産であることが「産地認証」された木材 (b) (a)以外において、徳島県内の森林で育成したことが確認された木材 (3) 受注者は、請負代金額が500万円以上の工事について、県産木材以外の木材を使用する場合は、県産木材を使用できない理由を施工計画書に記載すると共に、確認資料を事前に監督員に提出し、承諾を得なければならない。 (4) 受注者は、県産木材を使用する前に、徳島県木材認証機構から発行される「産地認証証明書」の写しにより県産木材であることを示す書類を監督員へ提出しなければならない。 (5) 県内の森林から直接調達するなど、前項に於いて難しい場合は木材調達先の産地及び相手の氏名等を記入した書類を監督員へ提出しなければならない。</p> <p>◎製材等（製材、集成材、合板、単板積層材）、フローリング、再生木質ボード（パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板）については、合法性に係る確認（「産地認証」及び「品質認証」を含む。）が行われたものを使用する。ただし、機能上、需給上など正当な理由により確保が困難であり、使用</p> |
| 13. 材料・製品等 | |

| 項目 | 特記事項 |
|--------------------|--|
| | <p>できない場合には監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 また、それらの木質又は紙の原料となる原木についての合法性に係る確認は、林野庁作成の「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン（平成18年2月15日）」に準拠して行うものとし、監督員に合法証明書を提出するものとする。ただし、平成18年4月より前に契約を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。</p> <p>◎標仕等に記載されていない特別な材料の仕様・工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の仕様及び指定工法による。</p> <p>◎県内産資材の原則使用 (1) 受注者は、木材以外の建設資材を使用する工事を施工する場合、原則として県内産資材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りでない。 なお、WTO対象工事については、県内産資材を優先して使用するよう努めるものとする。 (2) 受注者は、木材以外の建設資材について、県内産資材であることの別を施工計画書に記載するものとする。また、請負代金額が500万円以上の工事について、県内産資材以外の資材を使用する場合は、県内産資材を使用できない理由を施工計画書に記載すると共に、確認資料を事前に監督員に提出し、承諾を得なければならない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>県内産資材（次のいずれかに該当するもの） (1) 材料の主な部分を県内産出の原材料を使用している製品 (2) 徳島県内の工場で加工、製造された製品 注1 部材、部材が単体製品であっても、県内の工場で加工、製造した製品（二次製品）であれば県内産資材として取り扱う。 注2 県内企業が県外に立地した工場（自社工場）で加工、製造した製品も県内産資材として取り扱う。 注3 公共建築工事標準仕様書その他関連する示方書等の基準を満たす資材、製品であること。</p> </div> <p>◎県内企業調達建材等の優先使用 受注者は、徳島県内に主たる営業所を有する者から調達した建材等（以下、「県内企業調達建材等」という。）を優先して使用するよう努めなければならない。また、県内企業調達建材等の別を工種別施工計画書に記載するものとする。 なお、県内企業調達建材等以外を使用する場合は、県内企業調達建材等を使用しない理由を工種別施工計画書に記載し、監督員の承諾を得なければならない。</p> <p>◎県内産再生砕石の原則使用 受注者は、再生砕石を使用する場合、県内の再資源化施設（廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第15条第1項に基づく許可を有する施設（同法第15条の2の5第1項に基づく変更の許可において同じ。）で製造された再生砕石を原則として使用しなければならない。</p> <p>◎アスファルト舗装の材料 受注者は、加熱アスファルト混合物を使用するときは、原則として、「徳島県土木工事用アスファルト合材の品質審査要綱」に基づき工場認定を受けた県内の工場から出荷された合材を原則として使用しなければならない。</p> <p>◎本工事に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。 (1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗材は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 (2) 保溫材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 (3) 接着剤は、フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 (4) 塗料（塗りに床を含む）は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。 (5) (1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。</p> <p>◎設計図書に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、標仕記載の「疑義に対する協議等」による。</p> <p>◎工事現場に監督員は常駐できないので、疑問点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の出向いた時、又は営繕課へ問い合わせ、工事に滞りないようにすること。</p> <p>◎品質管理は、適切な時期に品質計画に基づき、確認、試験又は検査を行うこと。結果が管理値を外れなど疑義が生じた場合は、品質計画にしたがって適切な処理を施すこと。また、その原因を検討し、再発防止のための必要な処置をとること。</p> <p>◎施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、受注者の責任において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。</p> <p>◎本工事の施工及び管理にあたり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に資格者名簿及びその証明書類等を監督員に提出すること。</p> <p>◎設計図書（各施工計画書を含む）に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査等を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。</p> <p>◎試験等によらなければ確認できない工事（製品）については、試験等計画書（施工計画書に記載）を提出し、監督員の承諾を受け試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。</p> |
| 14. 化学物質を発生する建築材料等 | |
| 15. 施工 | |

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|---------|--------|-------|--------|---|----|--------------|---|----|-------------|----|----|-------|----|----|
| 16. 建設機械等 | <p>◎排出ガス対策型建設機械 本工事に使用する土工用建設機械、「排出ガス対策型建設機械指定要領（平成3.10.8 建設省経機発第249号 最終改正 平成14.4.1国総施第225号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械とする。ただし、排出ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明により評価された排出ガス浄化装置を装着することで排出ガス対策型建設機械と同等とみなすが、これにより難しい場合は、監督員と協議するものとする。なお、排出ガス対策型建設機械あるいは排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等が分かる写真を監督員に提出するものとする。</p> <p>◎低騒音・低振動型建設機械 本工事で使用する建設機械は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程（国土交通省告示 平成13年4月9日改正）」に基づき指定された建設機械を使用するものとする。現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の全景及び型番等、同規程に基づき指定された建設機械であることが分かる写真を監督員に提出するものとする。ただし、同規程に記載されていない機種、規格の建設機械により施工する場合はこの限りでない。なお、同規程に基づき指定された建設機械を現場に供給するが著しく困難な場合は、監督員と協議する。ただし、騒音規制法、徳島県公害防止条例等の関係法令を遵守するものとする。</p> <p>◎特定自主検査 本工事で使用する建設機械（労働安全衛生法により特定自主検査が義務づけられている建設機械）は、1年以内毎に1回特定自主検査を実施済みの機械を使用し、その検査証明書（検査記録表）の写しを使用工種の施工計画書に添付し提出すること。</p> <p>◎不正軽油の使用禁止 受注者は、ディーゼルエンジン仕様の車両及び建設機械等を使用する場合は、地方税法（昭和25年法律第226号）に違反する軽油等を燃料として使用してはならない。 また、受注者は、県の徴税吏員が行う使用燃料の採取調査に協力しなければならない。</p> <p>◎受注者は、当初請負対象金額（設計金額）が税込7千万円未満の場合において、遠隔臨場の実施を希望する場合は、「営繕工事の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき遠隔臨場を実施することができる。</p> <p>◎受注者は、当初請負対象金額（設計金額）が税込7千万円以上の場合において、「営繕工事の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき遠隔臨場を試行しなければならない。</p> <p>◎工事現場には、工事看板を監督員の指示に従って見やすい場所に設けること。</p> <p>◎受注者は、本工事において使用する工事看板・バリエード等については、県産木材を用いた木製品を優先して使用するよう努めなければならない。県産木材を購入した場合、受注者は、工事完了後「任意仮設における県内産木材購入実績報告書」を監督員へ任意で提出すること。</p> <p>◎受注者は、監督員から渡される「技能労働者への適切な賃金水準の確保等に関するポスター（A3）」を現場関係者が見やすい場所に掲げるとともに、掲示状況を工事写真として提出しなければならない。ただし、次のいずれかに該当する工事は対象外とする。 (1) 区画線工事、舗装工事、構設設工事、照明灯工事 (2) 当初請負金額が200万円未満の工事</p> <p>◎受注者は仮設トイレを設置する場合、次のとおりとしなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りではない。 ・当初請負対象金額（設計金額）5千万円以上の工事 原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「快適トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ（快適トイレ）」を設置しなければならない。 受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。なお、洋式トイレとは、和式トイレの便座部分を洋式化したトイレのこと。 快適トイレとは、洋式トイレのうち、防臭対策・施錠の強化などが実施された、女性が利用しやすい仮設トイレのこと。</p> <p>◎設計事務所による工事監理がある場合、受注者は、工事監理業務受注者が作成する設計変更箇所一覧表の内容について、監督員、工事監理業務受注者とともに定期的に確認すること。また、工事しゅん工前には全ての設計変更箇所及び内容を監督員、工事監理業務受注者とともに、書面により確認すること。</p> <p>◎設計図書（各施工計画書を含む）に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査等を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。</p> <p>◎試験等によらなければ、確認できない工事（製品）については、試験等計画書（施工計画書に記載）を提出し、監督員の承諾を受け試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。</p> <p>◎次表により中間検査の対象工事となった場合は、原則として次表の実施回数以上の中間検査を実施するものとする。ただし、工事検査員が認める場合は、一般入札工事に限り、これによらないことができる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>当初請負対象額</th> <th>一般入札工事</th> <th>低入札工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3千万円未満</td> <td>—</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>3千万円以上5千万円未満</td> <td>—</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>5千万円以上1億円未満</td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>1億円以上</td> <td>2回</td> <td>3回</td> </tr> </tbody> </table> | 当初請負対象額 | 一般入札工事 | 低入札工事 | 3千万円未満 | — | 1回 | 3千万円以上5千万円未満 | — | 2回 | 5千万円以上1億円未満 | 1回 | 2回 | 1億円以上 | 2回 | 3回 |
| 当初請負対象額 | 一般入札工事 | 低入札工事 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3千万円未満 | — | 1回 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3千万円以上5千万円未満 | — | 2回 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5千万円以上1億円未満 | 1回 | 2回 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1億円以上 | 2回 | 3回 | | | | | | | | | | | | | | |
| 17. 遠隔臨場の試行 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18. 工事看板等 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19. 仮設トイレ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20. 設計変更箇所確認 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 21. 工事検査及び技術検査 | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|-------------|--|-------------|---|
| | 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R6 営繕 第23好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築（2） | ●図面番号 A-003 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | | ●図面名 特記仕様書-2 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

| 項目 | 特記事項 | | |
|------|--------------|---------------------------|--|
| 金属 | 建築板金 | ・内外装板金作業 | |
| | 左官 | ・左官作業 | |
| 建具 | 建具製作 | ・木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業 | |
| | サッシ施工 | ・ビル用サッシ施工作業 | |
| 塗装 | ガラス施工 | ・ガラス工事作業 | |
| | 塗装 | ・建築塗装作業 | |
| 内装 | 内装仕上げ施工 | ・プラスチック系床仕上げ工事作業 | |
| | | ・カーペット系床仕上げ工事作業 | |
| | | ・鋼製下地工事作業 | |
| | | ・ボード仕上げ工事作業 | |
| 表装 | ・カーテン工事作業 | | |
| | ・木質系床仕上げ工事作業 | | |
| 配管 | 表装 | ・表具作業 ・ 壁装作業 | |
| 植栽 | 配管 | ・ 建築配管作業 | |
| 機械設備 | 造園 | ・ 造園工事作業 | |
| | 冷凍空調機器施工 | ・ 冷凍空調機器施工作業 | |

2章 仮設工事

| 項目 | 特記事項 |
|--------------------------------|---|
| ① 敷地の状況確認 | ◎着工に先立ち、敷地境界、既存構造物、敷地の高低差、地下埋設物の確認、近隣建築物及び工作物の現状確認、排水経路及び配水管の流末処理の確認並びに敷地周辺の状況確認を行うこと。 |
| ② ベンチマーク | ◎設計GLの設定は、BM(+575)とし、A-46図による。ただし、監督員の指示により決定する。 |
| ③ 足場等 | ◎仮設機材及び経年仮設機材の使用については、次の規格又は認定基準(以下「規格等」という。)に適合するものを使用すること。 ①労働安全衛生法に基づく構造規格 ②(社)仮設工業会の認定基準 また、厚生労働省の「経年仮設機材の管理指針」の基づく(社)仮設工業会の「適用工場制度」による登録工場及び指定工場等の活用に努めるとともに、前記規格等に定めるもの以外の使用に当たってはあらかじめ強度等を確認した書類を監督員に提出し、承諾を得ること。 ◎労働安全衛生法第88条に基づき、労働安全衛生規則別表第7に掲げる機械等(組立から解体までの期間が60日未満を除く)の設置や移転、変更を行う場合は、30日前までに所轄労働基準監督署長に届け出をおこなうこと。 届け出をおこなった場合は、監督員に報告すること。 届け出不要の場合は、その旨監督員に報告すること。 ◎労働安全衛生法第88条に基づく届け出の要否に関わらず、足場を設置する場合は、使用開始前に営業課指定の足場チェックリストを用いて点検した後、監督員の確認を受けること。 ◎外部足場(種類：枠組足場、仕様：1枚布500、D= 60 cm、シート仕様：養生シート) ・壁つなぎ間隔(水平方向：8 m以下、鉛直方向：9 m以下) ・足場を設置する場合は、原則として「手すり先行工法に関するガイドライン」(2.2.4)の別紙1「手すり先行工法による足場の組み立て等に関する基準」の2の(2) 手すり振置方式 により行うこと。 ただし監督員の承諾を得た場合は、(3)手すり先行専用足場方式により行うことができる。 ◎内部足場(種類：脚立足場、仕様： 枚布、D= cm) ・壁つなぎ間隔(水平方向： m以下、鉛直方向： m以下) ◎足場等の設置業者は、別契約の関係受注者に無償で使用させること、また安全管理も実施すること。 ◎足場等を無償使用する業者は、設置業者の指示に従うこと。 ◎受注者は、つり足場(ゴンドラのつり足場を除く。)、張出し足場又は高さ5メートル以上の構造の足場の組立て、解体又は変更の作業において、材料、器具、工具等を用い、又はおろすときは、つり綱、つり袋等を労働者に使用させなければならない。また、作業主任者を選任し、その氏名、職務を掲示すること。 |
| ④ 監督員事務所 | ◎監督員事務所は(・ 設ける(面積 m ² 程度) ○ 設けない) ◎会議室は(・ 設ける(面積 25 m ² 程度) ○ 設けない) |
| ⑤ 工事用水、電力等 | ◎既存電力利用(・ 出来る ○ 出来ない)、電力料金(○ 有償 ・ 無償) ただし、施設管理者と協議すること。 ◎既存水利用(○ 出来る ・ 出来ない)、用水料金(○ 有償 ・ 無償) ただし、施設管理者と協議すること。 |
| ⑥ 工事車両用駐車場 資材置場 現場事務所用地等 | ◎同用地は、(・ 図示の場所に ○ 用意していないので業者にて) 設けること。 ただし、施設管理者と協議すること。 |

3章 土工事

| 項目 | 特記事項 |
|-------------|--|
| ① 根切り | ◎周辺の状況、土質、地下水の状態等に適した工法を採用し、工事中の異常沈下、法面の滑動、その他による災害が発生しないよう、災害防止に必要な処置をすること。 ◎敷地内に埋設が予想される設備配管等について十分調査し、支障がないようにすること。 ◎根切り底は、地盤をかく乱しないよう、手作業(深さ30cm程度)とするか、バケットに特殊アタッチメントを取りつけた機械掘りとする。なお、かく乱した場合は、自然地盤と同等以上の強度となるように適切な処置を定め、監督職員の承諾を受ける。 |
| ② 排水 | ◎工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。 |
| ③ 埋め戻し及び盛土 | ◎使用土は((A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種) とし、機器により締め固める。 ◎建設発生土を搬入する場合には、土壌検査結果を添付するものとし、「徳島県生活環境保全条例」の土壌基準に適合しないものについては、搬入することができない。 ただし、次の場合は検査結果の添付の必要はない。 (1) 公共工事間利用の場合で、監督員相互で同意がとれた場合 (2) 購入土(切込碎石、砂、真砂土等)である場合 ◎余盛りは、土質に応じ監督員と協議の上、余盛り高さを決定すること。 |
| ④ 地均し | ◎建物の周囲、幅2m程度を、水はけよく地均しを行う。 ◎地均しは、均しを行う地表面の不陸を修正し、草木の除去及び清掃をして、一様にかき均した後、仕上げ面を一様になじみ起こしをして、良質土をまきかけ、歩行に耐えうる程度に締め固める。 |
| ⑤ 建設発生土の処理 | ◎場外搬出適正処分とする。 民間の残土処分場等へ搬出する場合は「徳島県生活環境保全条例」によることとし、建設発生土の発生場所ごとに、かつ4,000立方メートルまでごとに1回採取して、土壌検査を行うこととする。その他、「特定事業の許可に係る土壌検査及び水質検査の実施における留意点」による。 ただし、建設発生土の公共工事間の利用を行う場合で、担当者相互の同意が取れた場合には、分析の必要はない。 ◎土壌検査を行った結果、条例の基準に適合しない場合には、監督員と協議すること。 ◎場外搬出の場合の処理は次のとおりとする。 ・最終処分場の指定 排 出 土：砂質土 会 社 名：(株)らく一だん社 所 在 地：三好市池田町佐野西沼谷789番地 処分単価：1m ³ 当たり1300円(税抜き) 運搬距離：13.8kmを見込んでいる。 運搬経路：国道319号線→国道192号線 |
| ⑥ 建設発生汚泥の処理 | ◎場外搬出の場合の処理は次のとおりとする。 ・中間処理施設の指定 会 社 名：阿波バラス(株) 所 在 地：吉野川市鴨島町鴨島151-1 処分単価：12000円/t 運搬距離：44.3km 運搬経路：国道319号線→国道192号線 ◎舗装版切断に伴い発生する排水は汚泥に該当するため、関係法令等に基づき適正に処理すること。 |
| 7. 山留め | ◎山留めは、適切な資料に基づき構造計算を行い、安全に設置すること。また、設置期間中、周辺地域及び山留めの状況を点検するとともに、安全管理に必要な計測を行う。 ◎法面施工の場合(素掘り ・ 多段式) ◎山留めの存置 存置範囲 図示による。 ◎鋼矢板等抜き跡の処理 (・ 直ちに砂等で充填 ・) |

4章 地業工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|------------------------------|---------|------------------------------|---------|--------|--------|---------------|------|---------------|----|-----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 一般事項 | ◎試験杭の位置及び本数は図示による。仕様は本杭と同じとする。 ◎排水、排土等は産業廃棄物に該当するため、関係法令に基づき適正に処理すること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 既製コンクリート杭地業 | ◎杭の種類 種類 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭) ・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) 寸法、継手、性能等(種別・種類、性能及び曲げ強度区分) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種類</th> <th>コンクリート強度(N/mm²)</th> <th>鋼管厚(mm)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>杭長(mm)</th> <th>継手数</th> <th>セツト数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 種類 | コンクリート強度(N/mm ²) | 鋼管厚(mm) | 杭径(mm) | 杭長(mm) | 継手数 | セツト数 | 長期設計支持力(kN/本) | 備考 | 試験杭 | 上杭 | | | | | | | | | 中杭 | | | | | | | | | 下杭 | | | | | | | | | 本杭 | 上杭 | | | | | | | | | 中杭 | | | | | | | | | 下杭 | | | | | | | | |
| | 種類 | コンクリート強度(N/mm ²) | 鋼管厚(mm) | 杭径(mm) | 杭長(mm) | 継手数 | セツト数 | 長期設計支持力(kN/本) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試験杭 | 上杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 下杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本杭 | 上杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 下杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ◎杭先端部形状 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形 ◎専門工事業者は、工事に相応した技術を有することを証明する資料を監督職員に提出する。 ◎工 法 ・特定埋込杭工法 :平成13年7月2日 国土交通省告示第1113号第6Iによる。 ・セメントミルク工法 :プレポーリング掘削長さGLー m、オーガー径 mm ◎特定埋込杭工法における支持地盤の位置及び土質は図示とする。 ・杭の水平方向の位置ずれの精度は、()mm以下とする。 ◎支持地盤への掘削深さ()m、杭の支持地盤への根入深さ()m ◎支持地盤の位置及び土質は図示とする。 ・杭の水平方向の位置ずれの精度は、()mm以下とする。なお、ずれが()mmを超えた場合は、監督員の指示を受ける。 ◎専門工事業者は、工事の規模に相応した施工機械、施工体制、施行実績を有することを証明する資料を監督員に提出すること。 ◎杭の現場継手の形状は、JIS A 5525による。 ◎継手の施工に当たっては、上下杭の軸線を同一線上に合わせる。 ◎杭の現場継手の溶接は、原則として半自動又は自動のアーク溶接とする。 ◎溶接は標仕4.3.7.(2)(ア)(イ)、及び(ウ)の技術者が行う。 ◎溶接施工は標仕4.3.6(3)による。 ◎溶接部の確認は、標仕7.6.10Iに準じ行うこととし、確認結果の記録を監督職員に提出し、不合格溶接がある場合は標仕7.6.13Iにより補修を行う。 ◎溶接後は溶接部を急冷しないように、適切な時間において打ち込みを再開する。 ◎杭頭処理は、鋼製バンド等を使用し、10cm程度は手ばつりとする。 ◎杭頭の処理は標仕4.3.8Iによる。 ◎杭頭の補強材は杭の継手に準じて溶接されるものとする。 ◎使用機械は、オーガーの駆動用電動機の電流値の変化が自動記録できるものを装備する。 ◎支持層の確認は、掘削した土砂を確認し、監督員の承認を受けること。 ◎特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6Iによる地盤の許容支持力式で $\alpha=250$ を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6IIによる地盤の許容支持力式のうち α, β, γ が以下の値を採用できる工法 $\alpha=(), \beta=(), \gamma=()$ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|-------------|---|-------------|---|
| | 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設(仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-005 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | | ●図面名 特記仕様書-4 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

4章 地業工事

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|----------------|---------------|----------------------------------|---------|---------|----------------|---------|----------------|------|-----------|----|--|-------------|------------|------------|-------|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|----|----|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|----|------------|-----------|---------------|----------------------------------|-----|----|------|----|---------|-----|---------|----|------|-----|---------|-----|-------|----------------|--------|--|--|---------|--|--|-----------|--|--|-------------|----------|--|
| 3. 鋼杭地業 | <p>◎支持層は駆動用の電動機の電流値により確認する。</p> <p>◎杭先端は支持層に(1m)以上掘入れする。なお、岩盤等で困難な場合は、監督員と協議する。</p> <p>◎杭長は支持層確認後決定する。</p> <p>寸法、継手、性能等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (mm)</th> <th>継手数</th> <th>セット数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">試験杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本杭</td> <td>上杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎工 法 ◎特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式で$\alpha=250$を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα, β, γが以下の値を採用できる工法</p> <p>◎先端部の形状は(開放形・半開放形・閉塞形)とし、補強は、標準仕様書による。</p> <p>◎鋼管ぐいの現場継手の形状は、JIS A 5525による。</p> <p>◎杭頭処理は定規を用い、ガス切断により、水平かつ平滑に仕上げます。</p> <p>◎溶接部の確認は、標仕7.6.10により行い、確認結果の記録を監督職員に提出し、標仕7.6.13により補修を行う。</p> <p>◎掘削工法(アースドリル工法・リバース工法・オールケーシング工法・場所打ち鋼管コンクリート杭工法・拡底杭工法)とする。</p> <p>◎支持地盤の位置及び土質は図示とする。</p> <p>◎掘削深さ 設計GL-9 m、断面寸法 径 1,000 mm、本数 53 本</p> <p>◎材 料 鉄筋：異形鉄筋 A類、かぶり厚さ100mm 帯筋：形の種別は図示による。 溶接材料、溶接工、鉄筋の継手・定着(L1)等は、標準仕様書の各章による。</p> <p>◎組み立てた鉄筋ごとの継手 (・重ね継手 重ね継手長さ 図示による ・)</p> <p>◎鉄筋かごの補強構造図による。</p> <p>◎コンクリート S-17図による。 ・セメントの種類は、高炉セメントB種とする。 ・コンクリートの種別は(A・B)種とする。 設計基準強度 (Fc) = () N/mm²</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>水セメント比 (%)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>粗骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>単位セメント量の最小値 (kg/m³)</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A種</td> <td>60以下</td> <td rowspan="2">18</td> <td rowspan="2">25 (20)</td> <td>310</td> <td>無水掘りの場合</td> </tr> <tr> <td>B種</td> <td>55以下</td> <td>340</td> <td>上記以外の場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) ()内は、砕石及び高炉スラグ砕石使用の場合</p> <p>◎構造体コンクリートの強度と供試体の強度の差を考慮した割増しを(○行う・行わない)。 構造体強度補正值 (S)=() N/mm²</p> <p>◎構造体コンクリートの調管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。</p> <p>◎標準仕様書に記載された事項以外は、専門業者の仕様による。</p> <p>◎専門工事業者は、工事に相応した技術を有することを証明する資料を監督職員に提出する。</p> <p>◎掘削孔の側壁の確認を行う装置を使用(する・しない)</p> <p>◎支持層の確認は、掘削した土砂を確認し、監督員の承認を受けること。</p> <p>◎拡底杭は、(財)日本建築センターの評価工法とする。 工法名()</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>設計支持力</th> <th>支持力の算定方法又は確認方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打ち込み工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特定埋込杭工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セメントミルク工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>場所打ちコンクリート杭</td> <td>1764kN/本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 種類 | 厚さ (mm) | 杭径 (mm) | 杭長 (mm) | 継手数 | セット数 | 長期設計支持力 (kN/本) | 備考 | 試験杭 | 上杭 | | | | | | | | 中杭 | | | | | | | | 下杭 | | | | | | | | 本杭 | 上杭 | | | | | | | | 中杭 | | | | | | | | 下杭 | | | | | | | | 種別 | 水セメント比 (%) | スランプ (cm) | 粗骨材の最大寸法 (mm) | 単位セメント量の最小値 (kg/m ³) | 備 考 | A種 | 60以下 | 18 | 25 (20) | 310 | 無水掘りの場合 | B種 | 55以下 | 340 | 上記以外の場合 | 工 法 | 設計支持力 | 支持力の算定方法又は確認方法 | 打ち込み工法 | | | 特定埋込杭工法 | | | セメントミルク工法 | | | 場所打ちコンクリート杭 | 1764kN/本 | |
| | 種類 | 厚さ (mm) | 杭径 (mm) | 杭長 (mm) | 継手数 | セット数 | 長期設計支持力 (kN/本) | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 試験杭 | 上杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 下杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 本杭 | 上杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 下杭 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種別 | 水セメント比 (%) | スランプ (cm) | 粗骨材の最大寸法 (mm) | 単位セメント量の最小値 (kg/m ³) | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A種 | 60以下 | 18 | 25 (20) | 310 | 無水掘りの場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B種 | 55以下 | | | 340 | 上記以外の場合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 法 | 設計支持力 | 支持力の算定方法又は確認方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 打ち込み工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特定埋込杭工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セメントミルク工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所打ちコンクリート杭 | 1764kN/本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 場所打ちコンクリート杭地業 | <p>◎地盤の平板載荷試験(載荷荷重)は(行う・行わない)。 また、試験位置は図示のとおりとする。 報告書の記載事項は、次の事項を記載する。 ①地盤工学会基準JGS 1521-2003と部分的に異なる方法を用いた場合には、その方法 ②試験方法 ③試験結果の図及び表 ④地盤反力係数 ⑤極限支持力 ⑥試験地盤の観察結果と地下水の状況 ⑦その他特記すべき事項</p> <p>◎材料は、市場品とする。 ◎砂利及び砂地業 ・砂利は、(・切込砂利・切込砕石○再生クラッシュラン)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>使用部位</th> <th>厚 さ</th> <th>粒度範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切込砂利</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切込砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再生クラッシュラン</td> <td>土間下、基礎下、側溝</td> <td>150,100,60</td> <td>RC-40</td> </tr> </tbody> </table> <p>・締めめは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締めめによる凹凸は目つぶし砂利で上均しをする。</p> <p>・厚さが300mmを越える場合は、300mmごとに締めめを行う。</p> <p>◎締めめ機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎捨コンクリートは、無筋コンクリート(スランプ15cm、設計基準強度18N/mm²)とし、厚さは 50 mm とする。</p> <p>◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際ののみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。</p> <p>◎防湿層の位置は、土間スラブの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。</p> <p>◎六価クロム溶出試験を(○行う・行わない)。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果(計量証明書)を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固硬化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」(平成12年3月31日 建設第258号)の「六価クロム溶出試験実施要領(案)」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。</p> | 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | 切込砂利 | | | | 切込砕石 | | | | 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砂利 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砕石 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 支持力及び支持地盤の確認 | <p>◎支持層の確認は、掘削した土砂を確認し、監督員の承認を受けること。</p> <p>◎拡底杭は、(財)日本建築センターの評価工法とする。 工法名()</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>設計支持力</th> <th>支持力の算定方法又は確認方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>打ち込み工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>特定埋込杭工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>セメントミルク工法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>場所打ちコンクリート杭</td> <td>1764kN/本</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 工 法 | 設計支持力 | 支持力の算定方法又は確認方法 | 打ち込み工法 | | | 特定埋込杭工法 | | | セメントミルク工法 | | | 場所打ちコンクリート杭 | 1764kN/本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 法 | 設計支持力 | 支持力の算定方法又は確認方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 打ち込み工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 特定埋込杭工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| セメントミルク工法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所打ちコンクリート杭 | 1764kN/本 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|------------|-------|-----|------|------|--|--|--|------|--|--|--|-----------|------------|------------|-------|
| 6. 載荷試験 | <p>◎受注者は、杭の施工に当たり、杭先端が設計図書に示された支持層に達したことを掘削(回転)抵抗値、掘削土の状況などにより、杭全数について1本1本適切に確認しなければならない。また、確認のための資料を整備及び保管し、監督員の請求があった場合は速やかに提示するとともに、工事しゅん工検査請求書提出時までに監督員へ提出しなければならない。</p> <p>◎杭の施工に当たり、支持層への到達、現場接合及び先端処理については、全本数について監督員等の立会を受けなければならない。また、円滑に立会が行えるよう、杭のスケジュール管理表(任意様式)を作成し、事前に監督員へ提出して確認をうけなければならない。 なお、立会で確認した資料等については、工事現場において読み取り可能な状態で写真撮影し、立会写真とともに監督員へ提出しなければならない。</p> <p>◎杭の載荷試験は(・鉛直・水平)載荷試験とし、載荷荷重は()とする。 また、試験杭の位置は図示のとおりとする。 報告書の記載事項は、試験の目的のほか、次の事項を記載する。 ①敷地の状況、杭の位置 ②杭の種類、材質、形状、寸法、質量等 ③杭の打込み深さ(地盤状況、地下水位等が明らかなき場合は合わせて図示する。) ④杭の施工法 ⑤試験装置の概要 ⑥荷重-時間曲線 時間-沈下曲線(片対数グラフを含む) 荷重-沈下曲線(両対数グラフを含む) ⑦測定数値表 ⑧杭の設置日時及び試験日時 ⑨試験の状況を示す写真及び杭の設置から試験までの気象記録 ⑩考察 なお、土質性状については、できる限り地盤調査・土質試験データ等の詳細な情報を添付する。</p> <p>◎地盤の平板載荷試験(載荷荷重)は(行う・行わない)。 また、試験位置は図示のとおりとする。 報告書の記載事項は、次の事項を記載する。 ①地盤工学会基準JGS 1521-2003と部分的に異なる方法を用いた場合には、その方法 ②試験方法 ③試験結果の図及び表 ④地盤反力係数 ⑤極限支持力 ⑥試験地盤の観察結果と地下水の状況 ⑦その他特記すべき事項</p> <p>◎材料は、市場品とする。 ◎砂利及び砂地業 ・砂利は、(・切込砂利・切込砕石○再生クラッシュラン)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>使用部位</th> <th>厚 さ</th> <th>粒度範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切込砂利</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切込砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再生クラッシュラン</td> <td>土間下、基礎下、側溝</td> <td>150,100,60</td> <td>RC-40</td> </tr> </tbody> </table> <p>・締めめは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締めめによる凹凸は目つぶし砂利で上均しをする。</p> <p>・厚さが300mmを越える場合は、300mmごとに締めめを行う。</p> <p>◎締めめ機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎捨コンクリートは、無筋コンクリート(スランプ15cm、設計基準強度18N/mm²)とし、厚さは 50 mm とする。</p> <p>◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際ののみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。</p> <p>◎防湿層の位置は、土間スラブの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。</p> <p>◎六価クロム溶出試験を(○行う・行わない)。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果(計量証明書)を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固硬化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」(平成12年3月31日 建設第258号)の「六価クロム溶出試験実施要領(案)」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。</p> | 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | 切込砂利 | | | | 切込砕石 | | | | 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 |
| 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砂利 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砕石 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 砂利・砂・割り石及び捨コンクリート地業等 | <p>◎材料は、市場品とする。 ◎砂利及び砂地業 ・砂利は、(・切込砂利・切込砕石○再生クラッシュラン)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>使用部位</th> <th>厚 さ</th> <th>粒度範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>切込砂利</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>切込砕石</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再生クラッシュラン</td> <td>土間下、基礎下、側溝</td> <td>150,100,60</td> <td>RC-40</td> </tr> </tbody> </table> <p>・締めめは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締めとする。締めめによる凹凸は目つぶし砂利で上均しをする。</p> <p>・厚さが300mmを越える場合は、300mmごとに締めめを行う。</p> <p>◎締めめ機械の選定に当たっては、地質の状況を検討し監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎捨コンクリートは、無筋コンクリート(スランプ15cm、設計基準強度18N/mm²)とし、厚さは 50 mm とする。</p> <p>◎床下防湿層は、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合せ及び基礎梁際ののみ込みは250mm、断熱材のある場合のみ込みは400mm以上とする。</p> <p>◎防湿層の位置は、土間スラブの直下とする。ただし、断熱材がある場合は、断熱材の直下とする。</p> <p>◎六価クロム溶出試験を(○行う・行わない)。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果(計量証明書)を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固硬化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」(平成12年3月31日 建設第258号)の「六価クロム溶出試験実施要領(案)」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。</p> | 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | 切込砂利 | | | | 切込砕石 | | | | 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 |
| 種 別 | 使用部位 | 厚 さ | 粒度範囲 | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砂利 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 切込砕石 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生クラッシュラン | 土間下、基礎下、側溝 | 150,100,60 | RC-40 | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 地盤改良 | <p>◎六価クロム溶出試験を(○行う・行わない)。 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果(計量証明書)を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固硬化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」(平成12年3月31日 建設第258号)の「六価クロム溶出試験実施要領(案)」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

5章 鉄筋工事

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|---------------|---------------------|-------|-------|------------|-------------|-------------|---------------------|---|----------------------|---|--|------------|------------|---------------|--|
| 1. 材料 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格番号</th> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JIS G 3112</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>SD295、SD345</td> <td>D10、D13、D16、D19、D22</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋</td> <td>-</td> <td></td> </tr> <tr> <td>JIS G 3551</td> <td>溶接金網及び鉄筋格子</td> <td>網目の形状： 寸法： 径：</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 規格番号 | 規格名称 | 種類の記号 | 径(mm) | JIS G 3112 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 | SD295、SD345 | D10、D13、D16、D19、D22 | - | 建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋 | - | | JIS G 3551 | 溶接金網及び鉄筋格子 | 網目の形状： 寸法： 径： | |
| 規格番号 | 規格名称 | 種類の記号 | 径(mm) | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS G 3112 | 鉄筋コンクリート用棒鋼 | SD295、SD345 | D10、D13、D16、D19、D22 | | | | | | | | | | | | | | |
| - | 建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋 | - | | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS G 3551 | 溶接金網及び鉄筋格子 | 網目の形状： 寸法： 径： | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 材料試験 | <p>◎材料試験は行わない。 ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎鉄筋の継手は(○重ね継手○ガス圧継手・機械式継手・溶接継手)とする。</p> <p>◎鉄筋の継手の位置は図示による。</p> <p>◎結束線の端部は内側に折り曲げる。</p> <p>◎柱、梁の主筋(D19以上)は、(○ガス圧継手・機械式継手)とする。</p> <p>◎耐力壁の鉄筋を重ね継手とする場合、重ね継手の長さは()mmとする。</p> <p>◎先組み工法の柱、梁の主筋の継手は同一箇所としてもよい。</p> <p>◎スラブのスペーサーは鋼製を原則とし、他の箇所についても材種等について監督員の承諾を得ること。 また、鋼製のスペーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。 ただし、地階を有しない1階土間を除く。</p> <p>◎鉄筋の90°未満の折曲げの内法直径は図示による。</p> <p>◎鉄筋の定着方法及び長さは図示による。</p> <p>◎柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値を標準とする。</p> <p>◎目地がある場合のかぶりは、目地底からの寸法とする。</p> <p>◎杭基礎の場合のかぶりの厚さは、杭先端からとする。</p> <p>◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図【1階-基礎及び基礎梁の配筋】～【7階-梁貫通孔その他配筋】による。</p> <p>◎形の種別は構造図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 鉄筋の継手及び定着 | <p>◎柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値を標準とする。</p> <p>◎目地がある場合のかぶりは、目地底からの寸法とする。</p> <p>◎杭基礎の場合のかぶりの厚さは、杭先端からとする。</p> <p>◎各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図【1階-基礎及び基礎梁の配筋】～【7階-梁貫通孔その他配筋】による。</p> <p>◎形の種別は構造図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 | <p>◎補強形式 鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。</p> <p>◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎圧接技量資格者は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従う工事に相応した試験に基づく能力を有する者とする。</p> <p>◎検査は、外観検査及び(・引張試験○超音波探傷試験)による。</p> <p>◎切り取り部分の継手は次のとおりとする。 ・柱、梁の主筋(D19以上)：圧接 ・上記以外：(・圧接○重ね継手) 重ね継手とする場合は監督員の承諾を受けること。また鉄筋相互間の間隔に留意すること。</p> <p>◎機械式継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置()</p> <p>◎溶接継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置</p> <p>◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員との検査を受ける。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 帯筋 | <p>◎形の種別は構造図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 梁貫通孔補強 | <p>◎補強形式 鉄筋コンクリート構造配筋基準図による。</p> <p>◎梁貫通補強に建設技術評価規定に基づく評価品を使用する場合は、それぞれの部分についてメーカーの構造計算書を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎圧接技量資格者は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従う工事に相応した試験に基づく能力を有する者とする。</p> <p>◎検査は、外観検査及び(・引張試験○超音波探傷試験)による。</p> <p>◎切り取り部分の継手は次のとおりとする。 ・柱、梁の主筋(D19以上)：圧接 ・上記以外：(・圧接○重ね継手) 重ね継手とする場合は監督員の承諾を受けること。また鉄筋相互間の間隔に留意すること。</p> <p>◎機械式継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. ガス圧接 | <p>◎圧接技量資格者は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従う工事に相応した試験に基づく能力を有する者とする。</p> <p>◎検査は、外観検査及び(・引張試験○超音波探傷試験)による。</p> <p>◎切り取り部分の継手は次のとおりとする。 ・柱、梁の主筋(D19以上)：圧接 ・上記以外：(・圧接○重ね継手) 重ね継手とする場合は監督員の承諾を受けること。また鉄筋相互間の間隔に留意すること。</p> <p>◎機械式継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 機械式継手 | <p>◎機械式継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. 溶接継手 | <p>◎圧接技量資格者は、JIS Z 3881(ガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従う工事に相応した試験に基づく能力を有する者とする。</p> <p>◎検査は、外観検査及び(・引張試験○超音波探傷試験)による。</p> <p>◎切り取り部分の継手は次のとおりとする。 ・柱、梁の主筋(D19以上)：圧接 ・上記以外：(・圧接○重ね継手) 重ね継手とする場合は監督員の承諾を受けること。また鉄筋相互間の間隔に留意すること。</p> <p>◎機械式継手の種類()、工法()</p> <p>◎品質の確認方法()</p> <p>◎鉄筋相互のあき()</p> <p>◎不合格となった継手部への措置</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 配筋検査 | <p>◎主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員との検査を受ける。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|------------|--|-------------|---|
| | 徳島県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-006 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) 管理建築士 清水 康代 1級333707 |
| | | ●図面名 特記仕様書-5 | ●縮尺 NON | |

6章 コンクリート工事

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-----------|------------------------------|-----------|------------------------------|------|----|----|------|----|---|--|-----|-----------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 一般事項 | <p>◎コンクリートの種別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅰ類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・Ⅱ類(JIS A 5308への適合したコンクリート) <p>◎設計基準強度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>コンクリートの種類</th> <th>設計基準強度 Fc(N/mm²)</th> <th>調合管理強度 Fn(N/mm²)</th> <th>スランブ (cm)</th> <th>強度試験の有無</th> <th>種別</th> <th>気乾単位容積重量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通</td> <td>21</td> <td>21+S</td> <td>18</td> <td>有</td> <td></td> <td>2.3</td> <td>基礎、基礎梁、柱脚</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎構造体コンクリートの調合管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。なお、構造体強度補正值(S)は、標仕 表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢28日までの予想平均気温に応じて定める。</p> <p>◎コンクリートの強度試験 コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。 ・第4週強度確認 原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人立会いの上、行うこと。 ただし、第3者機関以外で行う場合は、立ち会い者を定め、監督員の承認を受け、行うこととする。 なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。</p> | コンクリートの種類 | 設計基準強度 Fc(N/mm ²) | 調合管理強度 Fn(N/mm ²) | スランブ (cm) | 強度試験の有無 | 種別 | 気乾単位容積重量 (t/m ³) | 適用箇所 | 普通 | 21 | 21+S | 18 | 有 | | 2.3 | 基礎、基礎梁、柱脚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コンクリートの種類 | 設計基準強度 Fc(N/mm ²) | 調合管理強度 Fn(N/mm ²) | スランブ (cm) | 強度試験の有無 | 種別 | 気乾単位容積重量 (t/m ³) | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 普通 | 21 | 21+S | 18 | 有 | | 2.3 | 基礎、基礎梁、柱脚 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② コンクリートの仕上がり | <p>◎コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容値は、標仕 表6.2.3による。</p> <p>◎合板せき板を用いる打直し上げの種別は(・A ○ B ・ C)種とする。</p> <p>◎コンクリートの仕上りの平たんさは標仕 表6.2.5による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 普通コンクリート | <p>◎セメントの種類は、(○普通ポルトランドセメント ・ 混合セメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種)とする。 ・高炉セメントB種適用箇所() ・フライアッシュセメントB種適用箇所()</p> <p>◎骨材は、標仕6.3.1(2)による。</p> <p>◎細骨材としてフェロニッケルスラグ使用(・できる ○できない)。</p> <p>◎細骨材に含まれる塩化物量は、NaCl換算で0.04%以下とする。</p> <p>◎コンクリート中の塩化物量は、0.3kg/m³以下とし、試験方法は標仕6.5.4による。</p> <p>◎試験りは(・行う ○行わない)。</p> <p>◎所要空気量は4.5%±1.5%とする。</p> <p>◎受注者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとらなければならない。 (1) コンクリート中のアルカリ総量の抑制 アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート1m³に含まれるアルカリ総量をNa₂O換算で3.0kg以下にする。 (2) 抑制効果のある混合セメント等の使用 JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント [B種またはC種] あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント [B種またはC種] もしくは混和材をポルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。 (3) 安全と認められる骨材の使用 骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法またはモルタルバー法)の結果で無害と確認された骨材を使用する。 試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)」, JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。</p> <p>◎混和材料を使用する場合の種類は標仕6.3.1(4)によることとし、監督員の承諾を受けること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ 打継ぎの位置 ひび割れ誘発目地 打継ぎ目地 | <p>◎打継ぎの位置 梁及びスラブ(・スパンの中央又は端から1/4付近 ・図示による) 柱及び壁(・スラブ、梁又は基礎の上端 ・図示による)</p> <p>◎コンクリートの打継ぎ目地の寸法は、標仕9.7.3〔目地寸法〕(1)(ア)による。</p> <p>◎ひび割れ誘発目地の位置(○図示による ・)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑤ レディミクストコンクリート 工場の指定 | <p>◎工事開始に先立ち、工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-------|-------|-------|--|----|------|--------|---|----|---|------|--|---------------|-----|----|--|--|--|---------------|-----|----|-----|------|--------------------------------|---------------|-----|----|--|--|--|---------------|------|----|-----|------|--|
| ⑥ 型枠 | <p>◎型枠は、(・県産木製型枠 ○ 合板 ・ 金属製 ・ 樹脂系 ・ 打込み型枠 ・ ブロック)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>型枠の種類</th> <th>仕上げ種別</th> <th>塗装の有無</th> <th>材質</th> <th>厚さ</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県産木製型枠</td> <td>—</td> <td>なし</td> <td>杉</td> <td>12mm</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.8.2 (2) (ア)</td> <td>A 種</td> <td>あり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.8.2 (2) (イ)</td> <td>B 種</td> <td>なし</td> <td>針葉樹</td> <td>12mm</td> <td>地上 : フォス基礎、土留め、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ</td> </tr> <tr> <td>6.8.2 (2) (イ)</td> <td>C 種</td> <td>なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6.8.2 (2) (イ)</td> <td>普通型枠</td> <td>なし</td> <td>針葉樹</td> <td>12mm</td> <td>地中 : 歩道基礎・柱、フォス基礎、土留め、スロ-プ基礎、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎型枠については、県産木製型枠を使用することが望ましい。 ◎スリーブの材種()</p> <p>◎打ち直し仕上げの打ち増し厚さは(20) mmとし、打ち増しの範囲は図示による。</p> <p>◎打ち直し仕上げのコーンは原則、Pコンとする。また脱型後の穴埋めは、樹脂モルタルにより打ち直し面より2mm程度、引込める。</p> <p>◎適用(する ・ しない)。</p> <p>◎適用期間 :</p> <p>◎強度管理の材齢は、()日とする。</p> <p>◎初期養生を行う期間は、コンクリートの圧縮強度が5N/mm²に達するまでとする。</p> | 型枠の種類 | 仕上げ種別 | 塗装の有無 | 材質 | 厚さ | 適用箇所 | 県産木製型枠 | — | なし | 杉 | 12mm | | 6.8.2 (2) (ア) | A 種 | あり | | | | 6.8.2 (2) (イ) | B 種 | なし | 針葉樹 | 12mm | 地上 : フォス基礎、土留め、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ | 6.8.2 (2) (イ) | C 種 | なし | | | | 6.8.2 (2) (イ) | 普通型枠 | なし | 針葉樹 | 12mm | 地中 : 歩道基礎・柱、フォス基礎、土留め、スロ-プ基礎、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ |
| 型枠の種類 | 仕上げ種別 | 塗装の有無 | 材質 | 厚さ | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 県産木製型枠 | — | なし | 杉 | 12mm | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6.8.2 (2) (ア) | A 種 | あり | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6.8.2 (2) (イ) | B 種 | なし | 針葉樹 | 12mm | 地上 : フォス基礎、土留め、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6.8.2 (2) (イ) | C 種 | なし | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6.8.2 (2) (イ) | 普通型枠 | なし | 針葉樹 | 12mm | 地中 : 歩道基礎・柱、フォス基礎、土留め、スロ-プ基礎、擁壁、タコ基礎、側溝、スロ-プ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 寒中コンクリート | <p>◎適用(する ・ しない)。</p> <p>◎適用期間 :</p> <p>◎強度管理の材齢は、()日とする。</p> <p>◎初期養生を行う期間は、コンクリートの圧縮強度が5N/mm²に達するまでとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑥ 無筋コンクリート | <p>◎無筋コンクリートは、次の場合に適用する。 ・捨コンクリート ・補強筋を必要としないコンクリート</p> <p>◎設計基準強度(18) N/mm² . スランブ(15) cm</p> <p>◎適用箇所 : 均しコン</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. マスコンクリート | <p>◎最小断面寸法が壁状部材で80cm以上、マツト状部材及び柱状部材で100cm以上のものに適用する。</p> <p>◎セメントは、(中麻熟ポルトランドセメント ・ 低熟ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 フライアッシュセメントB種 ・ 普通ポルトランドセメントに標仕6.13.2(2)(ア)の混和剤を混合したもの) とする。</p> <p>◎適用箇所 :</p> <p>◎スランブは、 cmとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

7章 鉄骨工事

| 項 目 | 特 記 事 項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------------------------|-------|-------|----|---------------------|-------------------------|----|--------|---|------------|----------------|---------|-------|-------|--------|-----------------|------------|-----------|------------|-----------|----------|-----------------|--------------|---------|
| ① 一般事項 | <p>◎製作工場は、国土交通大臣の認定による(J)グレード工場以上とし、その証明となる資料を監督職員に提出する。</p> <p>◎鉄骨製作工場には施工管理技術者を(○置く ・ 置かなくともよい)</p> <p>◎工事現場には、鉄骨製作工場名等を記載した板(30×35×45cm)(H.4.9.30 住指発第347号)を掲示すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 材料 | <p>◎鋼材は次による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格番号・規格名称等</th> <th>種類の記号</th> <th>適用 箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼</td> <td>SS400、SM490B、SM490C</td> <td>大梁、小梁、ﾀﾞｲｱﾗﾑ、ﾊﾞｰｽﾞﾌﾟﾚｰﾄ</td> </tr> <tr> <td>鋼管</td> <td>STK400</td> <td>柱</td> </tr> <tr> <td>建築用ターンバックル</td> <td>SM400B、SMR400B</td> <td>水平ﾌﾞﾚｰｽ</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎高力ボルトは、(JIS形高力ボルト ○ トルシア形高力ボルト2種 ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト)とする。径は、(M16、M20)とし、使用箇所は図示による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規格番号等</th> <th>規格名称等</th> <th>セットの種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築基準法に基づき指定又は認定</td> <td>トルシア形高力ボルト</td> <td>JIS II 09</td> </tr> <tr> <td>JIS B 1186</td> <td>JIS形高力ボルト</td> <td>2種(F10T)</td> </tr> <tr> <td>建築基準法に基づき指定又は認定</td> <td>溶融亜鉛めっき高力ボルト</td> <td>1種(F8T)</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎普通ボルト及びナットの材質は、(JIS付属品(JIS B 1180及びJIS B 1181) ・ JIS本体規格品(ISO規格))とする。径は、()とし、使用箇所は図示による。</p> <p>◎構造用アンカーボルトの材質は、(○ABR400 ・ ABR490)とする。</p> <p>◎建方用アンカーボルトの材質は(○SS400 ・ SS490)とする。</p> <p>◎溶接材料は、母材の種類、寸法及び溶接条件に相応したもので、製作工場の通常使用のものとする。</p> | 規格番号・規格名称等 | 種類の記号 | 適用 箇所 | 形鋼 | SS400、SM490B、SM490C | 大梁、小梁、ﾀﾞｲｱﾗﾑ、ﾊﾞｰｽﾞﾌﾟﾚｰﾄ | 鋼管 | STK400 | 柱 | 建築用ターンバックル | SM400B、SMR400B | 水平ﾌﾞﾚｰｽ | 規格番号等 | 規格名称等 | セットの種類 | 建築基準法に基づき指定又は認定 | トルシア形高力ボルト | JIS II 09 | JIS B 1186 | JIS形高力ボルト | 2種(F10T) | 建築基準法に基づき指定又は認定 | 溶融亜鉛めっき高力ボルト | 1種(F8T) |
| 規格番号・規格名称等 | 種類の記号 | 適用 箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 形鋼 | SS400、SM490B、SM490C | 大梁、小梁、ﾀﾞｲｱﾗﾑ、ﾊﾞｰｽﾞﾌﾟﾚｰﾄ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鋼管 | STK400 | 柱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築用ターンバックル | SM400B、SMR400B | 水平ﾌﾞﾚｰｽ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 規格番号等 | 規格名称等 | セットの種類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築基準法に基づき指定又は認定 | トルシア形高力ボルト | JIS II 09 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| JIS B 1186 | JIS形高力ボルト | 2種(F10T) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 建築基準法に基づき指定又は認定 | 溶融亜鉛めっき高力ボルト | 1種(F8T) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項 目 | 特 記 事 項 |
|------------|---|
| ③ 材料試験 | <p>◎ターンバックル 構造図S-11図による。胴の種類(割枠式 ・ バイブ式) ボルトの種類(羽子板ボルト ・ 両ねじボルト ・ アイボルト) ねじの呼び及びターンバックルの呼び長さは、(M6~M33)×()mmとする。</p> <p>◎床構造用のデッキプレート 材質(SDP1T, 2, 3, SDP1TG, 2G) 形状及び寸法は図示による。</p> <p>◎柱底均しモルタルを無収縮モルタルとする場合は次による。 ・セメントは、JIS R 5210による普通又は早強ポルトランドセメントとする。 ・混和材は、セメント系膨張材(酸化カルシウム、カルシウム・サルフォ・アルミネート等によって膨張する性質を利用するもの)とする。 ・砂、配合比等は、製造所の仕様による。 ・無収縮モルタルの品質及び試験方法は、標仕 表7.2.5による。</p> <p>◎JIS規格品は、材料試験は行わない。 ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎トルシア形高力ボルトは、製品に対する製造管理方法及び品質管理試験の結果を、監督員に提出し承諾を受けること。</p> <p>◎板厚方向の引張試験を(・行う ○行わない)。</p> |
| ④ 工作一般 | <p>◎高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等は図示による。</p> <p>◎床書き現寸図は作成(・する ○しない)。</p> <p>◎鉄骨の製作精度は、標準仕様書7.3.3及びH12建造第1464号第二号イによる。 H12建造第1464号第二号イ(1)(2)のただし 書きによる補強は、「突き合わせ継手の食い違いのいずれの検査・補強マニュアル」による。</p> <p>◎仮設のため鉄骨に補助材等取付け及び貫通孔等を設ける場合は、工場溶接を原則とし、現場溶接となる場合は監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎仮組を(・実施する ○実施しない)。</p> <p>◎すべり係数試験は(○行う ・ 行わない)。</p> <p>◎ショットプラスト又はグリットプラストにより摩擦面の表面粗度を50μmRz以上確保する場合の表面粗度の確認方法は次のいずれかによる。 (1) 表面粗度測定機による測定 (2) プラスト機器の性能表による確認 (3) スプライスプレート販売元からの表面粗度検査結果証明書による確認 上記の方法により確認できない場合は、すべり係数試験(サンプル試験)を行い、すべり係数値0.45以上を確認すること。</p> |
| ⑤ 高力ボルト接合 | <p>◎確認試験の数量は、呼び径ごとに代表ロットを選び、その中から任意に取り出した5セットとする。</p> <p>◎トルシア形高力ボルトは、軸力の確認試験を(○行う ・ 行わない)。</p> <p>◎締付け施工の確認は、JASS6 6.3〔締付け施工の確認〕に準じる。</p> <p>◎原則として本接合ボルトを仮ボルトとして使用しないこと。</p> <p>◎仮ボルトの本数は標仕7.10.5(2)~(3)とし、本接合完了までの応力に対して検討を行うこと。</p> |
| 6. 普通ボルト接合 | <p>◎普通ボルトの戻しめは(二重ナット ・ ナットの溶接 ・ ゆるみ防止用特殊ナット)による。ただし、母屋・胴縁類の取付用ボルトは、全ねじボルトとし、戻しめを省略できない。 ◎普通ボルトの産金は(・JIS B 1256 ・)による。</p> |
| ⑦ 溶接接合 | <p>◎溶接作業は、工場作業を原則とする。 ただし、やむを得ない場合は監督員の承諾を得ること。</p> <p>◎溶接技能者に対して、技量付加試験を(・行う ○行わない)。</p> <p>◎開先の形状は構造図による。</p> <p>◎溶接部の余盛り高さは、JASS6 付則6〔鉄骨精度検査基準〕付表3〔溶接〕による。</p> <p>◎スカラップの形状は、図示による。</p> <p>◎エンドタブの切除は(・行う ○行わない)。行う場合は図示による。</p> |

| | | | | |
|--|------------|---|-------------|---|
| | 徳島県土整備部営繕課 | ●工事名 R6 営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-007 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) 管理建築士 清水 康代 1級333707 |
| | | ●図面名 特記仕様書-6 | ●縮尺 NON | |

7章 鉄骨工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | |
|----------------------|---|-------|------|-----|----|---------|---------------------|--|------|
| | <p>◎エンドタブ、表当て金等は、梁フランジ等の端から、1～5mm残して、部材断面を欠損しないよう直線上に切断する。なお、切断線が交差する場合は、交差点をアール状に加工する。</p> <p>◎低応力高サイクル疲労を受ける部位は、図示による。</p> <p>◎完全溶込み溶接部は超音波探傷試験を(○行う・行わない)。 試験を行う場合の平均出検査品質限界(AOQL)は(・2.5%○4%)とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験の種類</th> <th>試験箇所</th> <th>試験数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>超音波探傷試験</td> <td>柱梁接合部 柱'-スラット接合部</td> <td></td> <td>第6水準</td> </tr> </tbody> </table> | 試験の種類 | 試験箇所 | 試験数 | 備考 | 超音波探傷試験 | 柱梁接合部 柱'-スラット接合部 | | 第6水準 |
| 試験の種類 | 試験箇所 | 試験数 | 備考 | | | | | | |
| 超音波探傷試験 | 柱梁接合部 柱'-スラット接合部 | | 第6水準 | | | | | | |
| 8. スタッド溶接及びデッキプレート溶接 | <p>◎デッキプレートを鉄骨部材に溶接する工法は、次による。 (・アークスポット溶接・隅肉溶接・焼抜き栓溶接)</p> <p>◎スタッド溶接完了後は、試験記録を作成し、監督員の承認を得ること。</p> | | | | | | | | |
| ⑨ 錆止め塗装 | <p>◎素地ごしらは、標仕 表18.2.3(○A・B)種とする。 ※A種及びB種は製作工場で行うものとする。</p> <p>◎塗料種別 鉄面 標準仕様書 表18.3.1の(○A・B)種 亜鉛めっき面 標準仕様書 表18.3.2の(・A・B・C)種</p> <p>◎錆止め塗料塗り 鉄面 標準仕様書 表18.3.3の(・A○B)種 亜鉛めっき面 標準仕様書 表18.3.4</p> <p>◎耐火被覆材の接着する面の塗装の範囲は図示による。塗料の種別は(・A・B)種とする。</p> <p>◎耐火被覆材の接着する面以外の塗装の範囲は図示による。塗装の範囲は、標仕7.8.2(1)(ア)～(オ)以外とする。</p> | | | | | | | | |
| 10. 耐火被覆 | <p>◎耐火被覆 種類(),材料・工法() 耐火性能(),適用箇所()</p> | | | | | | | | |
| ⑩ 工事現場施工 | <p>◎鉄骨建方の精度は、(社)日本建築学会「建築工事標準仕様書-6.鉄骨工事付則-6.鉄骨精度検査基準」による。 ただし以下のものは図面による。 ・特に精度を必要とする構造物あるいは構造物の部分。 ・軽微な構造物あるいは構造物の部分。</p> <p>◎建方用アンカーボルトを(○使用する・使用しない)。 ◎建方(及び付属鉄骨)用アンカーボルトの形状及び寸法は図示による。 ◎構造用アンカーボルトを(○使用する・使用しない)。</p> <p>◎構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法は図示による。</p> <p>◎アンカーボルトの保持及び埋込み工法は(・A○B)種とする。</p> <p>◎柱底均しモルタル工法は(○A・B)種とし、厚さは図示による。 A種の場合の無収縮モルタルは、製造所の仕様による。</p> | | | | | | | | |
| 12. 軽量形鋼構造 | <p>◎普通ボルトには、二重ナットなどにより戻止めを行う。ただし、胴縁、母屋類は除く。 また、ボルト締め後のネジ山は、3山以上出るようにする。</p> <p>◎形鋼、鋼板類の亜鉛めっきは、標仕 表14.2.2による。</p> | | | | | | | | |
| 13. 溶融亜鉛めっき工法 | <p>◎摩擦面の処理は、(・ プラスト処理 ・ リン酸塩処理)とする。</p> <p>◎プラスト処理とする場合は、5.高力ボルト接合同様の方法で表面粗度50μmRz以上の確認を行う。</p> <p>◎リン酸塩処理とする場合は、すべり耐力等を確認するものとし、確認方法は(すべり試験)とする。 すべり試験の要領は、溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会の「めっき高力ボルト接合設計施工指針」による。</p> | | | | | | | | |

8章 ブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|---|---------------------|------------------------|---------------------|------------------|-------------------|----------|----------|----|---|------|----|-----|---------------|----|--|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1. 補強コンクリートブロック造 | <p>◎コンクリートブロックは、JIS A 5406による規格品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>断面形状 (空洞、 型枠状)</th> <th>圧縮強さ の種別 (08~40)</th> <th>化粧内容</th> <th>寸法精度 (標準制度、 高精度)</th> <th>透水性 (普通、 防水性)</th> <th>正味 厚さ (mm)</th> <th>モジュール 呼び寸法(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>長さ 高さ</td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎充填用及びまぐさのコンクリートは1類とし、呼び強度F=21、スランプ21cmとする。 上記以外のコンクリートは、設計基準強度F=21N/mm²とする。</p> <p>◎モルタルの調合は、標仕8.2.3とする。 ◎壁及びまぐさの配筋は図示による。</p> <p>◎1日の積み上げ高さは、1.6m以下とする。</p> | 断面形状 (空洞、 型枠状) | 圧縮強さ の種別 (08~40) | 化粧内容 | 寸法精度 (標準制度、 高精度) | 透水性 (普通、 防水性) | 正味 厚さ (mm) | モジュール 呼び寸法(mm) | 適用箇所 | | | | | | | 長さ 高さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 断面形状 (空洞、 型枠状) | 圧縮強さ の種別 (08~40) | 化粧内容 | 寸法精度 (標準制度、 高精度) | 透水性 (普通、 防水性) | 正味 厚さ (mm) | モジュール 呼び寸法(mm) | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 長さ 高さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. コンクリートブロック横壁及び塀 | <p>◎コンクリートブロックは、JIS A 5406による規格品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>断面形状 (空洞、 型枠状)</th> <th>圧縮強さ の種別 (08~40)</th> <th>化粧内容</th> <th>寸法精度 (標準制度、 高精度)</th> <th>透水性 (普通、 防水性)</th> <th>正味 厚さ (mm)</th> <th>モジュール 呼び寸法(mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>空洞</td> <td>16</td> <td>—</td> <td>標準精度</td> <td>普通</td> <td>150</td> <td>長さ 400 高さ 200</td> <td>浴室</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎充填用及びまぐさのコンクリートは1類とし、呼び強度F=21、スランプ21cmとする。 上記以外のコンクリートは、設計基準強度F=21N/mm²とする。</p> <p>◎壁及びまぐさの配筋は図示による。</p> <p>◎壁配筋の継手定着及び端部の折り曲げ形状は図示による。</p> <p>◎モルタルの調合は、標仕8.2.3とする。</p> | 断面形状 (空洞、 型枠状) | 圧縮強さ の種別 (08~40) | 化粧内容 | 寸法精度 (標準制度、 高精度) | 透水性 (普通、 防水性) | 正味 厚さ (mm) | モジュール 呼び寸法(mm) | 適用箇所 | 空洞 | 16 | — | 標準精度 | 普通 | 150 | 長さ 400 高さ 200 | 浴室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 断面形状 (空洞、 型枠状) | 圧縮強さ の種別 (08~40) | 化粧内容 | 寸法精度 (標準制度、 高精度) | 透水性 (普通、 防水性) | 正味 厚さ (mm) | モジュール 呼び寸法(mm) | 適用箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 空洞 | 16 | — | 標準精度 | 普通 | 150 | 長さ 400 高さ 200 | 浴室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. ALCパネル | <p>◎ALCパネルは、JIS A 5416による規格品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>単位荷重 (パネルの 設計荷重) (N/m²)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>長さ (mm)</th> <th>幅 (mm)</th> <th>表面加工 区分</th> <th>パネルの 取付け 工法</th> <th>耐火 性能</th> <th>使用 箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>間仕切</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>床</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。</p> <p>◎外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取合い部の伸縮調整目地幅は、()mmとする。</p> <p>◎伸縮調整目地に耐火目地材を(充填する・充填しない)。</p> | 種類 | 単位荷重 (パネルの 設計荷重) (N/m ²) | 厚さ (mm) | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 表面加工 区分 | パネルの 取付け 工法 | 耐火 性能 | 使用 箇所 | 備考 | 壁 | | | | | | | | | | 間仕切 | | | | | | | | | | 屋根 | | | | | | | | | | 床 | | | | | | | | | |
| 種類 | 単位荷重 (パネルの 設計荷重) (N/m ²) | 厚さ (mm) | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 表面加工 区分 | パネルの 取付け 工法 | 耐火 性能 | 使用 箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 壁 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 間仕切 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 押出成形セメント板 | <p>◎押出成形セメント板は、JIS A 5441による規格品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類 (外壁用、 間仕切用)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>働き幅 (mm)</th> <th>表面形状</th> <th>ロックウール 充填の有無</th> <th>パネルの 取付け工法</th> <th>使用箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎パネル相互の目地幅は、長辺(10)mm、短辺(15)mm以上とする。</p> <p>◎出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅は(15)mmとし、シーリング材(寸法15×10(mm))を充填する。</p> <p>◎耐火性能は(・2時間耐火・1時間耐火・30分耐火)とする。</p> <p>◎耐火構造以外の目地及び隙間の処理は(・パネル製造所の指定・)とする。</p> <p>◎建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施工計画書として提出する。</p> <p>○建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速V₀=(34)m/s 地表面粗度区分(・I・II・III・IV)</p> <p>◎アスベストを使用していない製品とする。</p> <p>◎製造所： 評価名簿による。</p> <p>◎やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。</p> | 種 類 (外壁用、 間仕切用) | 厚さ (mm) | 働き幅 (mm) | 表面形状 | ロックウール 充填の有無 | パネルの 取付け工法 | 使用箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種 類 (外壁用、 間仕切用) | 厚さ (mm) | 働き幅 (mm) | 表面形状 | ロックウール 充填の有無 | パネルの 取付け工法 | 使用箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|--------|----------------|--------|----------------|--------------|----------|--|--|------------|----------|--|--|
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>開口の大きさ</th> <th>切断後のパネルの残り部分の幅</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パネルに開口を設ける場合</td> <td>短辺 長辺</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>パネルを切り欠く場合</td> <td>短辺 長辺</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | 開口の大きさ | 切断後のパネルの残り部分の幅 | パネルに開口を設ける場合 | 短辺 長辺 | | | パネルを切り欠く場合 | 短辺 長辺 | | |
| | | 開口の大きさ | 切断後のパネルの残り部分の幅 | | | | | | | | | | |
| パネルに開口を設ける場合 | 短辺 長辺 | | | | | | | | | | | | |
| パネルを切り欠く場合 | 短辺 長辺 | | | | | | | | | | | | |

9章 防水工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------|--|---------|--------|---------|--------|-----|------------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|--------------|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|--------------|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|-----|--|--|--|--------------|------|--|--|--|------|--|--|--|-----------------|-----|--|--|--|-----|--|--|--|--|----|------|-----|-----|----|------------|-------|--|--|--|--|-------|--|--|--|--|------------|-------|--|--|--|--|-------|--|--|--|--|--------------|--------|--|--|--|--|--------|--|--|--|--|
| 1. 一般事項 | <p>◎防水下地の乾燥については、高周波水分計による地下水分の測定を行い、使用材料のメーカーの工法と確認し、工事を進めること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. アスファルト防水 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>工 法</th> <th>種別</th> <th>施 工 箇 所</th> <th>保護層の内容</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">屋根保護防水密着工法</td> <td>A-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">屋根保護防水密着断熱工法</td> <td>AI-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>AI-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>AI-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">屋根保護防水絶縁工法</td> <td>B-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>B-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">屋根保護防水絶縁断熱工法</td> <td>BI-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BI-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>BI-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">屋根露出防水絶縁工法</td> <td>D-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D-4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋根露出防水絶縁断熱工法</td> <td>DI-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>DI-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋 内 防 水 密 着 工 法</td> <td>E-1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>E-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎アスファルトは、JIS K 2207 の規格品3種とする。</p> <p>◎端部押え金物は既成アルミニウム製とし、形状寸法は(40mm×10mm)とする。</p> <p>◎防水下地の立ち上がりコンクリートの仕上げは(B種)とする。</p> <p>◎保護層の伸縮調整目地は成形伸縮目地とし、成形緩衝材はルーフィング類製造所の指定する製品とする。</p> <p>◎立上り部の保護は、(・乾式工法・れんが押え・コンクリート押え)とする。 乾式保護材は、材料製造所の仕様による。</p> <p>◎屋上排水溝は図示する。</p> <p>◎改質アスファルトシートは、JIS A 6013の規格品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>防湿層</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">屋根露出防水密着工法</td> <td>AS-T1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>AS-T2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋根露出防水絶縁工法</td> <td>AS-T3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>AS-T4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">屋根露出防水絶縁断熱工法</td> <td>ASI-T1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ASI-J1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎押え金物は改質アスファルト製造所の仕様による。</p> <p>◎仕上げ塗料() 使用量 ()</p> | 工 法 | 種別 | 施 工 箇 所 | 保護層の内容 | 備 考 | 屋根保護防水密着工法 | A-1 | | | | A-2 | | | | A-3 | | | | 屋根保護防水密着断熱工法 | AI-1 | | | | AI-2 | | | | AI-3 | | | | 屋根保護防水絶縁工法 | B-1 | | | | B-2 | | | | B-3 | | | | 屋根保護防水絶縁断熱工法 | BI-1 | | | | BI-2 | | | | BI-3 | | | | 屋根露出防水絶縁工法 | D-1 | | | | D-2 | | | | D-3 | | | | D-4 | | | | 屋根露出防水絶縁断熱工法 | DI-1 | | | | DI-2 | | | | 屋 内 防 水 密 着 工 法 | E-1 | | | | E-2 | | | | | 種別 | 施工箇所 | 断熱材 | 防湿層 | 備考 | 屋根露出防水密着工法 | AS-T1 | | | | | AS-T2 | | | | | 屋根露出防水絶縁工法 | AS-T3 | | | | | AS-T4 | | | | | 屋根露出防水絶縁断熱工法 | ASI-T1 | | | | | ASI-J1 | | | | |
| 工 法 | 種別 | 施 工 箇 所 | 保護層の内容 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根保護防水密着工法 | A-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | A-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | A-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根保護防水密着断熱工法 | AI-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | AI-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | AI-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根保護防水絶縁工法 | B-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | B-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根保護防水絶縁断熱工法 | BI-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | BI-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | BI-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水絶縁工法 | D-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | D-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | D-3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | D-4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水絶縁断熱工法 | DI-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | DI-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋 内 防 水 密 着 工 法 | E-1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | E-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 種別 | 施工箇所 | 断熱材 | 防湿層 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水密着工法 | AS-T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | AS-T2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水絶縁工法 | AS-T3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | AS-T4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋根露出防水絶縁断熱工法 | ASI-T1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ASI-J1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 改質アスファルトシート防水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | |
|--|------------|---|-------------|---|
| | 徳島県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-008 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | | ●図面名 特記仕様書-7 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

12章 木工事

| 項目 | 特記事項 |
|-------------|---|
| 1. 一般事項 | ◎工事現場搬入時の含水率は(・A・B)種とする。 |
| 2. 製材 | ◎木材の品質 ・保存処理木材は、日本農林規格に規定する保存処理の処理区分のうち、K2からK4までの保存処理(JIS K 1570)(木材保存剤)に規定する木材保存剤(ただし、クレオソート油は有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律(昭和48年法律第112号)に適合したものとする。)、これと同等の薬剤を用いたK2からK4までの薬剤の浸透度及び吸収量を確保する工場処理その他これと同等の性能を有する処理を含む。)が施されているもの又は認証木材建材(AQマーク表示)として認定された保存処理材を使用するものとする。 ・樹種及び等級 |
| 3. 造作用集成材等 | ◎ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆の集成材等を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 ◎「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 |
| | ◎「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 |
| | ◎「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱 |
| 4. 造作用単板積層材 | ◎ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆の造作用単板積層材を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 ◎「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材 |

| 項目 | 特記事項 |
|------------|--|
| 5. 床張り用合板等 | ◎「単板積層材の日本農林規格」以外による造作用単板積層材 |
| | ◎ホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆の床張り合板等を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 |
| | ◎普通合板 |
| | ◎構造用合板 |
| | ◎パーティクルボード |
| | ◎構造用パネル |

13章 屋根及びとい工事

| 項目 | 特記事項 |
|------------|--|
| ① 一般事項 | ◎屋根葺き材、緊結金物については、下地も含め安全性を確認し、監督員の承諾を得ること。 ◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。 ◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 $V_0 = (\quad 34 \quad) / s$ 地表面粗度区分 (・I・II・III・IV) 積雪区分 建設省告示第1455号 別表(35) |
| 2. 長尺金属板葺き | ◎屋根葺き形式 ・横葺 ・瓦葺(心木なし) ・平葺(一文字葺き・ひし形葺き) |
| ③ 折板葺 | ◎折板は、JIS A 6514(金属製折板屋根構成材)による。 |

| 項目 | 特記事項 |
|---------|--|
| 4. 粘土瓦葺 | ◎断熱材 ○有り 厚さ 4mm、種別：不燃、材質：無機質高充填フォームもしくはガラス繊維 ◎標準仕様書以外の工法は、専門業者の仕様による。また、タイトフレーム、けらば納めは屋根葺き工法に応じた専門業者の仕様による。 ◎建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法を施工計画書として提出する。 ◎JIS G 3302以外のタイトフレームの表面処理 |
| ⑤ とい | ◎とい受金物 形状(SUS製：市販品、25×4.5以上) 取付間隔(1,100以内) ◎材種(7M、硬質塩化ビニル) 径(60φ、65φ) ◎防露の施工箇所は図示により、図示のもの以外は標仕13.5.3(d)による。ロックウール又はグラスウール保温筒のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆のロックウール又はグラスウール保温筒を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。 ◎鋼管製といの防露巻きは、図示による。それ以外の場合は、標仕13.5.4により行う。 ◎硬質塩化ビニル雨どいの1本の長さは、10m以内とし、伸縮に対応する工法を選択すること。 ◎ルーフトレンの種別(陸屋根用(横型)、バルコニー中継用) ◎ルーフトレンの製造所： 評価名簿による。 ◎ルーフトレン及びといは、取付け完了後、清掃し、通水試験を行う。 ◎さがり止めは図面により、図示のもの以外は標仕13.5.3(1)(ア)(d)又は13.5.3(2)(イ)による。 |

14章 金属工事

| 項目 | 特記事項 |
|-------------|--|
| ① 一般事項 | ◎製品の取付に当たっては、受材の有無並びにアンカーの長さ、径及び本数等について、十分耐力のある工法を選択し、監督員の承諾を得ること。 |
| ② 表面処理 | ◎ステンレス(手すり、タラップ、建具以外) |
| | ◎アルミニウム及びアルミニウム合金(成形板、笠木、建具以外) |
| | ◎鉄鋼の亜鉛めっき(手すり、タラップ以外) |
| 3. 溶接、ろう付け等 | ◎溶接及びろう付けによる接合後は、各表面仕上げの種類別の皮膜処理を行うこと。ただし、亜鉛めっき面については、標仕14.2.3による。 ◎鉄の溶接は、7章「鉄骨工事」に準ずる。 |

| | | | |
|-------------|---|-------------|--|
| 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-010 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | ●図面名 特記仕様書-9 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

14章 金属工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|--|--------------|--------|--------------|------|--------|-----------|-----|-----|--|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|-----|--|--|------|--|--|------|--|--|------|--|--|
| 4. 軽量鉄骨天井下地 | <p>◎野縁などの種類：屋内19形 屋外25形とし、標仕 表14. 4. 11による。</p> <p>◎耐震性を考慮した補強及び屋外の軒天、ピロティー天井等における耐風圧性を考慮した補強は、図示による。</p> <p>◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 $V_0=(\quad 34 \quad)m/s$ 地表面粗度区分 (I ・ II ○ III ・ IV) 積雪区分 建設省告示第1455号 別表(35)</p> <p>◎屋外の野縁受・吊りボルト及びインサート・野縁の間隔は図示による。</p> <p>◎ダクト等によって、吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の、補強方法は図示による。</p> <p>◎天井のふとところが1. 5m以上の箇所の補強方法は図示による。</p> <p>◎天井下地材における耐震性を考慮した補強方法は図示による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 軽量鉄骨壁下地 | <p>◎スタッド、ランナーの種類は、標準仕様書14. 5. 3(表14. 5. 1)による。</p> <p>◎出入口及びこれに準ずる開口部の補強は (・標仕14. 5. 4(5) ・) による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 金属成形板張り | <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>スバンドレル</th> <th>モールドイング(既製品)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>材 質</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>製 法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>板 幅</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>寸 法</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚 さ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>形 状</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>表面処理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>伸縮継手</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付下地</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 種 別 | スバンドレル | モールドイング(既製品) | 材 質 | | | 製 法 | | | 板 幅 | | | 寸 法 | | | 厚 さ | | | 形 状 | | | 表面処理 | | | 伸縮継手 | | | 取付下地 | | |
| 種 別 | スバンドレル | モールドイング(既製品) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材 質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 製 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 板 幅 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寸 法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 厚 さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 形 状 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表面処理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 伸縮継手 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取付下地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. アルミニウム製笠木 | <p>◎押出材材： 規 格 JIS H 4100によるA6063Sとする。 部 材 の 種 類 (・250形 ・ 300形 ・ 350形 ・ 図示)とする。 本体の表面処理 (BB-1)種 付属部品の表面処理は、笠木本体製造所の仕様による。</p> <p>◎曲 げ 材： 規 格 JIS H 4000によるA1100Pとする。 厚さ()mm 形状 図示</p> <p>◎地域指定 (・一般 ・ 多雪)</p> <p>◎建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した固定金具の間隔、固定方法を施工計画書として提出する。</p> <p>◎建築基準法に基づき定められた区分等 基準風速 $V_0=(\quad 34 \quad)m/s$ 地表面粗度区分 (I ・ II ・ III ・ IV) 積雪区分 建設省告示第1455号 別表(35)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 手すり及びタラップ | <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>表面処理</th> <th>直径</th> <th>取付箇所</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎手すりの支柱は、コンクリートあるいはモルタルの中に入る部分であっても鎖止め処置を行うこと。</p> | 材種 | 表面処理 | 直径 | 取付箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材種 | 表面処理 | 直径 | 取付箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. エクステンションジョイント金物 | <p>◎材 質() クリアランス() 耐火性能()</p> <p>◎屋根・外壁面のEXP. Jで室内に面する場合の雨仕舞は図示による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 天井点検口 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>形式</th> <th>外枠</th> <th>内枠</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 材種 | 寸法 | 形式 | 外枠 | 内枠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材種 | 寸法 | 形式 | 外枠 | 内枠 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 床点検口 | <p>◎製作所： 評価名簿による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>450角,600角</td> <td>一般形</td> <td>屋内用</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎製作所： 評価名簿による。</p> | 材種 | 寸法 | 形式 | 備考 | ステンレス製 | 450角,600角 | 一般形 | 屋内用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材種 | 寸法 | 形式 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ステンレス製 | 450角,600角 | 一般形 | 屋内用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

15章 左官工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|--|-------|--------|-------|--------|------|------|------|------|------|--|---|------|--|---|--|--|--|--|
| ① 一般事項 | <p>◎下地調整に用いる吸水調整材の使用方法は、製造所の仕様による。</p> <p>◎コンクリート等面の下地及び各塗り層は、清掃のうえ適度の水湿しを行って、次の層の塗り方にかかる。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② モルタル塗り | <p>◎モルタルは(・現場調合材料 (・既配合材料))</p> <p>◎下地、塗り面等の浮いている部分は、直ちに補修する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>使用箇所</th> <th>仕上の種類</th> <th>目地の材質</th> <th>防水の有無</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床</td> <td>金ごて</td> <td></td> <td>無</td> <td></td> </tr> <tr> <td>床</td> <td>はけ引き</td> <td></td> <td>無</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎防水剤の製造所： 評価名簿による。</p> <p>◎目地の位置及び寸法は、図示による。 .</p> <p>◎防水モルタルに用いる防水剤の使用方法は、製造所の仕様による。</p> <p>◎総塗り厚が25mm以上となる場合は、はく落防止工法とすること。</p> | 使用箇所 | 仕上の種類 | 目地の材質 | 防水の有無 | 備考 | 床 | 金ごて | | 無 | | 床 | はけ引き | | 無 | | | | |
| 使用箇所 | 仕上の種類 | 目地の材質 | 防水の有無 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床 | 金ごて | | 無 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 床 | はけ引き | | 無 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 床コンクリート直均し仕上げ | <p>◎施工箇所(・バタ付基礎)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. セルフレベリング材塗り | <p>◎セルフレベリング材の種類(・せっこう系 ・ セメント系) 塗り厚さ()mm 施工箇所は、(・仕上表による ・ 図示による) .</p> <p>◎シーラーその他の材料は、セルフレベリング材製造所の指定する製品とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 仕上げ塗材仕上げ | <p>◎仕上塗材は、JIS A 6909(建築用仕上塗材)による。 なお、下塗材、増塗材、主材及び上塗材は、同一製造所の製品とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>呼び名</th> <th>上塗材</th> <th>仕上げの形状</th> <th>耐候性</th> <th>工 法</th> <th>防火認定</th> <th>下地仕上</th> <th>下地調整</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 種 類 | 呼び名 | 上塗材 | 仕上げの形状 | 耐候性 | 工 法 | 防火認定 | 下地仕上 | 下地調整 | | | | | | | | | |
| 種 類 | 呼び名 | 上塗材 | 仕上げの形状 | 耐候性 | 工 法 | 防火認定 | 下地仕上 | 下地調整 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. マスチック塗材塗り | <p>◎建物内部に使用するユリア樹脂等(ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、(F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆)とする。</p> <p>◎下地処理として内壁ALCパネルの目地部の形状は、()とする。</p> <p>◎所要量等の確認は、(標仕 表15. 6. 4. 単位面積当たりの使用量)による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. せっこうプaster塗り | <p>◎種別 (A種 , B種 (仕上材塗り：EP-G (A種 ・ B種))</p> <p>◎プasterは、JIS A 6904(せっこうプaster)による。 なお、せっこうプasterは、製造後4か月以上経過したものは使用しない。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. ロックウール吹付 | <p>◎ロックウールは、JIS A 9504により建築基準法に基づき不燃材料の指定又は認定を受けたものとする。 ロックウールのホルムアルデヒド放散量は、(・F☆☆☆☆ ・ F☆☆☆)とする。</p> <p>◎接着剤のホルムアルデヒド放散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> <p>◎吹付厚さ ()mm</p> <p>◎吹付完了後、施工者の施工管理担当者は、厚さ及びかさ比重の検査を行い、合格後、防火材料の認定マークを1面2か所以上貼り付けること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

18章 塗装工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--------|------------|--------|------------|-----------|-----|-----------|------|----|----|----|----|--------|--|----|----|----|----|----|----|-----|--|----|----|--|----|----|----|
| ① 一般事項 | <p>◎防火材料又は建築基準法に基づく指定又は認定を受けたものとする。</p> <p>◎塗料はホルマリン不検出のもの及び有機溶剤の含有量が少ないものとする。</p> <p>◎ユリア樹脂等(ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">種 別</th> <th rowspan="2">素地ごしらえ</th> <th colspan="2">さび止め塗料</th> <th rowspan="2">さび止め工程の種別</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>屋外</th> <th>屋内</th> <th>屋外</th> <th>屋内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>垂始めつき面</td> <td></td> <td>—</td> <td>B種</td> <td></td> <td>A種</td> <td>A種</td> <td>建具</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼面</td> <td></td> <td>B種</td> <td>C種</td> <td></td> <td>A種</td> <td>A種</td> <td>階段</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | | さび止め工程の種別 | 備 考 | 屋外 | 屋内 | 屋外 | 屋内 | 垂始めつき面 | | — | B種 | | A種 | A種 | 建具 | 鉄鋼面 | | B種 | C種 | | A種 | A種 | 階段 |
| 区 分 | 種 別 | | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | | さび止め工程の種別 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 屋外 | 屋内 | | 屋外 | 屋内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 垂始めつき面 | | — | B種 | | A種 | A種 | 建具 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鉄鋼面 | | B種 | C種 | | A種 | A種 | 階段 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td>B種</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | 木部 | B種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木部 | B種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. クリヤーラッカー塗り(OL) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td>B種</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | 木部 | B種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木部 | B種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 耐候性塗料(DP) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>工程種別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>錆止め塗料塗りの種別</th> <th>上塗りの等級</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | 錆止め塗料塗りの種別 | 上塗りの等級 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | 錆止め塗料塗りの種別 | 上塗りの等級 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>工程種別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>さび止め塗料</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 合成樹脂エマルジョンペイント塗料(EP) | <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">種 別</th> <th rowspan="2">素地ごしらえ</th> <th rowspan="2">備 考</th> </tr> <tr> <th>屋外</th> <th>屋内</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボード面</td> <td></td> <td>B種</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ECP面</td> <td></td> <td>B種</td> <td>B種</td> <td>内壁</td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | | 素地ごしらえ | 備 考 | 屋外 | 屋内 | ボード面 | | B種 | B種 | | ECP面 | | B種 | B種 | 内壁 | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 屋外 | 屋内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ボード面 | | B種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ECP面 | | B種 | B種 | 内壁 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 合成樹脂エマルジョンペイント模様塗料塗り(EP-T) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>さび止め塗料</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | さび止め塗料 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. ウレタン樹脂ワニス塗り(UC) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 油性ステイン塗り(OS) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 素地ごしらえ | 備 考 | 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. 木材保護塗料塗り(WP) | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>種 別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>木部</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 種 別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 木部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. フッ素樹脂クリアー塗装 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>工程種別</th> <th>素地ごしらえ</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コンクリート面</td> <td>A種</td> <td>B種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | 備 考 | コンクリート面 | A種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 工程種別 | 素地ごしらえ | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| コンクリート面 | A種 | B種 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-------------|---|-----------------------------------|---|
| 徳島県県土整備部営繕課 | <p>●工事名 R 6 営繕 第 2 三好寮 ・ 三好市地域利便性施設 (仮称) 三 ・ 池田 新築工事建築 (2)</p> <p>●図面名 特記仕様書-10</p> | <p>●図面番号 A-011</p> <p>●縮尺 NON</p> | <p>1 級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建 築 設 計 徳島市福島 1 丁 目 5 番 6 号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) 管理建築士 清水 康代 1 級333707</p> |
|-------------|---|-----------------------------------|---|

20章 ユニット及びその他の工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---------|---------|---------|---------|--------|------|--------|---------|----|-------|------|--|----------|-----------|--|--|--|--|--|--|
| 1. フリーアクセスフロア | <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>構法</th> <th>寸法</th> <th>高さ</th> <th>耐震性能</th> <th>所定荷重</th> <th>表面仕上げ材</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎製造所： 評価名簿による。</p> <p>◎タイルカーベットは、帯電防止性能のある防災品とし、フリーアクセスフロアメーカー標準品を使用すること、 厚()mm</p> <p>◎施工にあたっては、施工前にフリーアクセスパネル及びタイルカーベットの割付施工図を提出し、承認後に製作施工を行うこと。</p> | 施工箇所 | 構法 | 寸法 | 高さ | 耐震性能 | 所定荷重 | 表面仕上げ材 | 備考 | | | | | | | | | | | | |
| 施工箇所 | 構法 | 寸法 | 高さ | 耐震性能 | 所定荷重 | 表面仕上げ材 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. 可動間仕切 | <table border="1"> <tr> <th>構造形式の種類</th> <th>構成基材の種類</th> <th>遮音性</th> <th>パネル表面仕上</th> <th>使用箇所</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎可動間仕切のパネルの材料のホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量がF☆☆☆☆の可動間仕切のパネルを使用できない場合は、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> | 構造形式の種類 | 構成基材の種類 | 遮音性 | パネル表面仕上 | 使用箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | |
| 構造形式の種類 | 構成基材の種類 | 遮音性 | パネル表面仕上 | 使用箇所 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 移動間仕切 | <table border="1"> <tr> <th>操作方法の種類</th> <th>表面材の材質</th> <th>表面仕上</th> <th>遮音性</th> <th>使用箇所</th> <th>圧接装置</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 操作方法の種類 | 表面材の材質 | 表面仕上 | 遮音性 | 使用箇所 | 圧接装置 | 備考 | | | | | | | | | | | | | |
| 操作方法の種類 | 表面材の材質 | 表面仕上 | 遮音性 | 使用箇所 | 圧接装置 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. トイレブース | <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">表面材の種類</th> <th colspan="2">脚部</th> <th colspan="2">ドアエッジ</th> </tr> <tr> <th>形状</th> <th>形状</th> <th>形状</th> <th>材質</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎非常時間放機能付き ◎製作所： 評価名簿による。</p> <p>◎トイレブースのパネルの材料のホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量がF☆☆☆☆のトイレブースのパネルを使用できない場合は、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> | 表面材の種類 | 脚部 | | ドアエッジ | | 形状 | 形状 | 形状 | 材質 | | | | | | | | | | | |
| 表面材の種類 | 脚部 | | ドアエッジ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 形状 | 形状 | 形状 | 材質 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. 視覚障害者用床タイル | <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ</th> </tr> <tr> <td>屋内</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎ブロックパターンはJIS T 9251による。</p> | 施工箇所 | 種類 | 寸法(mm) | 厚さ | 屋内 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工箇所 | 種類 | 寸法(mm) | 厚さ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 屋内 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 階段滑り止め | <p>◎材種(), 形状(), 幅()</p> <p>◎取付け方法は(・埋込み工法 ・接着工法)とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ 黒板及びホワイトボード | <p>◎種別(黒・白・緑・黄・赤) 枠の材質は(鉄製)とする。</p> <p>◎色彩は(・緑 ・黒 ・白)とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑧ 鏡 | <p>◎防湿性を有するもので、厚さ5mm、6mm(1階男子女子トイレ)とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑨ 表示 | <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> <th>厚さ</th> <th>取付高さ</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>衝突防止表示</td> <td rowspan="3">図示</td> <td rowspan="3">図示</td> <td rowspan="3">図示</td> <td rowspan="3">図示</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>非常用進入口表示</td> </tr> <tr> <td>総合案内板、室名札</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎案内用図記号はJIS Z 8210による。 ◎詳細は共通詳細図による。</p> | 区分 | 材質 | 寸法 | 厚さ | 取付高さ | 備考 | 衝突防止表示 | 図示 | 図示 | 図示 | 図示 | | 非常用進入口表示 | 総合案内板、室名札 | | | | | | |
| 区分 | 材質 | 寸法 | 厚さ | 取付高さ | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 衝突防止表示 | 図示 | 図示 | 図示 | 図示 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 非常用進入口表示 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総合案内板、室名札 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. 煙突ライニング | <p>◎煙突用成形ライニング材の製造所： 評価名簿による。</p> <p>◎工法() 適用安全使用温度() 上限温度() 下限温度()</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑪ ブラインド | <table border="1"> <tr> <th>形式</th> <th>横形ブラインド</th> <th>縦形ブラインド</th> </tr> <tr> <td>材質</td> <td>アルミ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>開閉方式</td> <td>ギヤ式、電動式</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スラット幅</td> <td>25mm</td> <td></td> </tr> </table> | 形式 | 横形ブラインド | 縦形ブラインド | 材質 | アルミ | | 開閉方式 | ギヤ式、電動式 | | スラット幅 | 25mm | | | | | | | | | |
| 形式 | 横形ブラインド | 縦形ブラインド | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材質 | アルミ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 開閉方式 | ギヤ式、電動式 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スラット幅 | 25mm | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--------|------------------------|--------|------------------------|--------|------|---|---|----|--|--|--|-------|----|--|--|--|-------|----|--|--|--|-------|
| 12. ロールスクリーン | <table border="1"> <tr> <th>操作方式</th> <th>幅・高さ</th> <th>防災性能</th> <th>材種・品質</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 操作方式 | 幅・高さ | 防災性能 | 材種・品質 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 操作方式 | 幅・高さ | 防災性能 | 材種・品質 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13. カーテン及びカーテンレール | <table border="1"> <tr> <th>施工取付箇所</th> <th>きれ地の種別、品質、特殊加工等(製造所)</th> <th>ひだの種別</th> <th>形式</th> <th>引分装置</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>◎カーテンレールは次による。 材種(), 形状(), 寸法()</p> <p>◎補強鉄線の径</p> <p>◎清幅×深さ(mm) ・ 90×150 ・ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・ 図示 材質 ・ 集成材(仕上) ・ アルミニウム製 表面処理 ・ BC-1 ・ BC-2(・アンバー ・ ブロンズ ・ ブラック系 ・ ステンカラー) 皮膜等の種類 ※標準仕様書14.2.1による ・ 鋼製(仕上) ・ 木製</p> | 施工取付箇所 | きれ地の種別、品質、特殊加工等(製造所) | ひだの種別 | 形式 | 引分装置 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工取付箇所 | きれ地の種別、品質、特殊加工等(製造所) | ひだの種別 | 形式 | 引分装置 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14. ブラインドボックス及びカーテンボックス | <p>◎取付金物(), 取付方法()</p> <p>◎コンクリートの設計基準強度 ()N/mm²</p> <p>◎配筋を定めた計算書を監督員に提出すること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15. プレキャストコンクリート工事 | <p>◎面の形状(), 材種()</p> <p>◎JISによる質量区分：</p> <p>◎積み方は()とする。</p> <p>◎目差りは、(行う ・ 行わない)</p> <p>◎目地の材種(), 厚さ()</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16. 間知石及びコンクリート間知ブロック積 | <p>◎面の形状(), 材種()</p> <p>◎JISによる質量区分：</p> <p>◎積み方は()とする。</p> <p>◎目差りは、(行う ・ 行わない)</p> <p>◎目地の材種(), 厚さ()</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑰ 流し台ユニット | <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">材種</th> <th colspan="3">寸法</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>W</th> <th>D</th> <th>H</th> </tr> <tr> <td>図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>活動室小B</td> </tr> <tr> <td>図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1階事務室</td> </tr> <tr> <td>図示</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2階事務室</td> </tr> </table> <p>◎詳細は共通詳細図による。</p> | 材種 | 寸法 | | | 備考 | W | D | H | 図示 | | | | 活動室小B | 図示 | | | | 1階事務室 | 図示 | | | | 2階事務室 |
| 材種 | 寸法 | | | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | W | D | H | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図示 | | | | 活動室小B | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図示 | | | | 1階事務室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 図示 | | | | 2階事務室 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑱ フェンス | <p>フェンスの種類 ・ ビニル被覆エキスパンドフェンス ◎樹脂塗装メッシュフェンス ・ 鋼管フェンス ◎アルミフェンス</p> <p>高さ ◎図示 ・</p> <p>◎詳細は共通詳細図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 19. 洗面カウンター | <p>材種 ・メラミン樹脂化粧板張り(心材：集成材) ・ 人工大理石 奥行き ・ 約450 ・ 約600 ・</p> <p>◎詳細は共通詳細図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑳ 既製家具 | <p>◎合板、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量は、F☆☆☆☆とする。 ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量が、F☆☆☆☆の合板、MDF及びパーティクルボードを使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20. 乾式置床 | <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>高さ</th> <th>床下地</th> <th>耐荷重(N/m²)</th> <th>表面仕上げ材</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> | 種類 | 高さ | 床下地 | 耐荷重(N/m ²) | 表面仕上げ材 | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種類 | 高さ | 床下地 | 耐荷重(N/m ²) | 表面仕上げ材 | 施工箇所 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

21章 排水工事

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|-------------|------|---------------------|-------|----------------|---------|-----------|------|--------------|------|-------------|---------------------|--------|---------|-------------|-----|------|------|---------------------|-------|---------|------|-----|----|------|---------------------|-------|---------|------|------|----|------|---------------------|-------|---|------|--------|------|------|---------------------|-------|----------------|----|----|------|----|--|--|--|--|----|----|----|----|----------|---------|---------|--|--------------|---|-------------|------|--------|---|-------------|--|------|---|---------|--|
| ① 排水管 | <p>◎排水管材料</p> <table border="1"> <tr> <th>材種</th> <th>管の種類</th> <th>呼び径</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>硬質ポリ塩化ビニル管</td> <td>V P</td> <td>150A、200A</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>V U</td> <td>150A、200A</td> <td></td> </tr> </table> | 材種 | 管の種類 | 呼び径 | 備考 | 硬質ポリ塩化ビニル管 | V P | 150A、200A | | | V U | 150A、200A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 材種 | 管の種類 | 呼び径 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 硬質ポリ塩化ビニル管 | V P | 150A、200A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | V U | 150A、200A | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 側溝、排水樹等 | <p>◎側溝の形状： 図示</p> <p>◎排水マスの種類： 図示</p> <p>◎グレーチング</p> <table border="1"> <tr> <th>材質</th> <th>用途</th> <th>適用荷重</th> <th>引分装置</th> <th>垂れつき付着量</th> <th>上面形状</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>スチール</td> <td>雨水枡</td> <td>T-25</td> <td>30mm</td> <td>550g/m²</td> <td>ノスリッパ</td> <td>※ 1/4固定</td> </tr> <tr> <td>スチール</td> <td>雨水枡</td> <td>T-2</td> <td>30mm</td> <td>550g/m²</td> <td>ノスリッパ</td> <td>※ 1/4固定</td> </tr> <tr> <td>スチール</td> <td>雨水枡</td> <td>歩行</td> <td>15mm</td> <td>550g/m²</td> <td>ノスリッパ</td> <td>※ 1/4固定</td> </tr> <tr> <td>スチール</td> <td>U型側溝</td> <td>歩行</td> <td>15mm</td> <td>550g/m²</td> <td>ノスリッパ</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>スチール</td> <td>自由勾配側溝</td> <td>T-25</td> <td>15mm</td> <td>550g/m²</td> <td>ノスリッパ</td> <td>※ 1/4固定、※ 1/4付</td> </tr> </table> <p>・製造所： 評価名簿による</p> <p>◎鋳鉄製マンホールふた</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>適用荷重</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・製造所： 評価名簿による</p> <p>◎砂の粒度試験は、(・ 行う ○ 行わない)</p> <p>◎地業材料： 捨てコンクリート 厚さ 50mm</p> <p>◎砂利地業の厚さは、(100,150)mmとする。</p> <p>◎コンクリート設計基準度等：側溝蓋、集水枡、雨水枡 21 N/mm²、スランプ= 18cm 場所打ちコンクリート側溝 24 N/mm²、スランプ= 18 cm</p> <p>◎街きよ、緑石及び側溝</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td>監理指針による</td> <td>150×150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>場所打ちコンクリート側溝</td> <td>—</td> <td>1,080×2,010</td> <td>場所打ち</td> </tr> <tr> <td>自由勾配側溝</td> <td>—</td> <td>1,080×2,010</td> <td></td> </tr> <tr> <td>U字側溝</td> <td>—</td> <td>240×240</td> <td></td> </tr> </table> | 材質 | 用途 | 適用荷重 | 引分装置 | 垂れつき付着量 | 上面形状 | 備考 | スチール | 雨水枡 | T-25 | 30mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | スチール | 雨水枡 | T-2 | 30mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | スチール | 雨水枡 | 歩行 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | スチール | U型側溝 | 歩行 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | — | スチール | 自由勾配側溝 | T-25 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定、※ 1/4付 | 名称 | 種類 | 適用荷重 | 備考 | | | | | 名称 | 形状 | 寸法 | 備考 | 地先境界ブロック | 監理指針による | 150×150 | | 場所打ちコンクリート側溝 | — | 1,080×2,010 | 場所打ち | 自由勾配側溝 | — | 1,080×2,010 | | U字側溝 | — | 240×240 | |
| 材質 | 用途 | 適用荷重 | 引分装置 | 垂れつき付着量 | 上面形状 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スチール | 雨水枡 | T-25 | 30mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スチール | 雨水枡 | T-2 | 30mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スチール | 雨水枡 | 歩行 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スチール | U型側溝 | 歩行 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スチール | 自由勾配側溝 | T-25 | 15mm | 550g/m ² | ノスリッパ | ※ 1/4固定、※ 1/4付 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称 | 種類 | 適用荷重 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称 | 形状 | 寸法 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地先境界ブロック | 監理指針による | 150×150 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所打ちコンクリート側溝 | — | 1,080×2,010 | 場所打ち | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自由勾配側溝 | — | 1,080×2,010 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| U字側溝 | — | 240×240 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 街きよ、緑石、側溝 | <p>◎地業材料： 捨てコンクリート 厚さ 50mm</p> <p>◎砂利地業の厚さは、(100,150)mmとする。</p> <p>◎コンクリート設計基準度等：側溝蓋、集水枡、雨水枡 21 N/mm²、スランプ= 18cm 場所打ちコンクリート側溝 24 N/mm²、スランプ= 18 cm</p> <p>◎街きよ、緑石及び側溝</p> <table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>形状</th> <th>寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>地先境界ブロック</td> <td>監理指針による</td> <td>150×150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>場所打ちコンクリート側溝</td> <td>—</td> <td>1,080×2,010</td> <td>場所打ち</td> </tr> <tr> <td>自由勾配側溝</td> <td>—</td> <td>1,080×2,010</td> <td></td> </tr> <tr> <td>U字側溝</td> <td>—</td> <td>240×240</td> <td></td> </tr> </table> | 名称 | 形状 | 寸法 | 備考 | 地先境界ブロック | 監理指針による | 150×150 | | 場所打ちコンクリート側溝 | — | 1,080×2,010 | 場所打ち | 自由勾配側溝 | — | 1,080×2,010 | | U字側溝 | — | 240×240 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 名称 | 形状 | 寸法 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地先境界ブロック | 監理指針による | 150×150 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 場所打ちコンクリート側溝 | — | 1,080×2,010 | 場所打ち | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自由勾配側溝 | — | 1,080×2,010 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| U字側溝 | — | 240×240 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ④ その他(PC枡) | <p>◎地業材料の種類： 再生クラッシュラン 厚さ： 図示</p> <p>◎基礎コンクリート設計基準度等： 21 N/mm²、スランプ= 15 cm</p> <p>◎埋め戻し材料：(・A ○ B ・ C ・ D)種とする。</p> <p>◎排水工事の仕様は、図示以外は、建築工事標準詳細図による。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | |
|-------------|---|-------------|---|
| 徳島県県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-012 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | ●図面名 特記仕様書-11 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |

22章 舗装工事

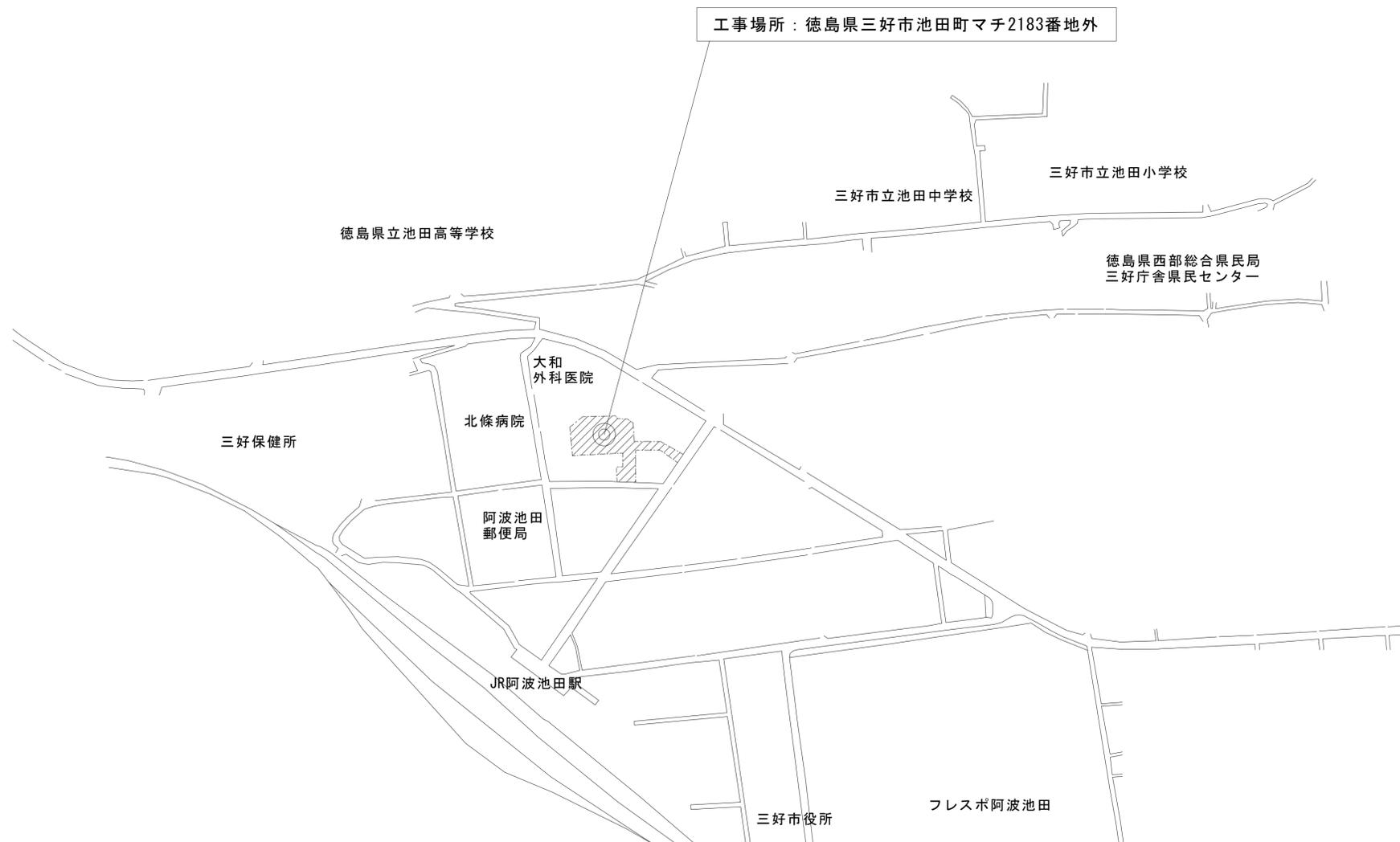
| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--|-----------|-----------|-----------|--------|----------|----|-----|-----|-----|-------------|--|--|---------------|--------------|--|-------|----|----|-----------|--------|-----|------|----|----|-----------|-----|-----|-----|-------------|--|--|---------------|--------------|--|
| ① 路床 | <p>◎盛土材料(B種)</p> <p>◎凍上抑制層材料(), 凍上抑制層厚さ()</p> <p>◎透水性舗装フィルター材料(), 透水性舗装フィルター厚さ()</p> <p>◎路床安定処理材は()とし、厚さ()</p> <p>◎六価クロム溶出試験を(・行う ○ 行わない). 行った場合、土壌環境基準以下であることを確認すると共に、試験結果(計量証明書)を監督員に提出するものとする。 六価クロム溶出試験は、「セメント及びセメント系固化材の地盤改良への使用及び改良土の再利用に関する当面の措置」(平成12.3.31 建設第258号)の「六価クロム溶出試験実施要領(案)」により実施する。 土質条件、施工条件等により試験方法、検体数に変更が生じた場合、試験の結果、六価クロムの溶出量が土壌環境基準を超えた場合等は、監督員と協議するものとする。</p> <p>◎路床土の支持力比(CBR)試験は(・行う [乱した土、乱さない土] ○ 行わない)</p> <p>◎路床締固め試験は(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎砂の粒度試験は(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎現場CBR試験を(・行う ○ 行わない)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 路盤 | <p>◎路盤材料(再生クラッシュラン), 車道部の厚さは(150)mm</p> <p>◎締固め試験は(○行う ・ 行わない).</p> <p>◎路盤の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. アスファルト舗装 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>部 位</th> <th>舗装の厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アスファルト</td> <td>駐車場、構内通路</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎再生加熱アスファルト混合物を(○使用する ・ しない).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>種 類</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加熱アスファルト混合物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再生加熱アスファルト混合物</td> <td>密粒度アスファルト混合物</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎シールコートは(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎アスファルト混合物の抽出試験は(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎切取り試験を(○行う ・ 行わない)</p> <p>◎表層の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。</p> <p>◎地域は(○一般地域 ・ 寒冷地域)とする。</p> <p>◎舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>工法</th> <th>部位</th> <th>舗装の厚さ(mm)</th> <th>結合材の種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常温系</td> <td>塗布工法</td> <td>車路</td> <td>50</td> <td>アスファルト混合物</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎再生加熱アスファルト混合物を(○使用する ・ しない).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>種 類</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加熱アスファルト混合物</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>再生加熱アスファルト混合物</td> <td>密粒度アスファルト混合物</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎シールコートは(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎添加する材料 ・着色骨材() ・自然石() ○アクリル系カラー塗布材</p> <p>◎アスファルト混合物の抽出試験は(・行う ○ 行わない).</p> <p>◎舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。</p> <p>◎表層の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。</p> | 舗装の種類 | 部 位 | 舗装の厚さ(mm) | アスファルト | 駐車場、構内通路 | 50 | 種 別 | 種 類 | 備 考 | 加熱アスファルト混合物 | | | 再生加熱アスファルト混合物 | 密粒度アスファルト混合物 | | 舗装の種類 | 工法 | 部位 | 舗装の厚さ(mm) | 結合材の種類 | 常温系 | 塗布工法 | 車路 | 50 | アスファルト混合物 | 種 別 | 種 類 | 備 考 | 加熱アスファルト混合物 | | | 再生加熱アスファルト混合物 | 密粒度アスファルト混合物 | |
| 舗装の種類 | 部 位 | 舗装の厚さ(mm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アスファルト | 駐車場、構内通路 | 50 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種 別 | 種 類 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 加熱アスファルト混合物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生加熱アスファルト混合物 | 密粒度アスファルト混合物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 舗装の種類 | 工法 | 部位 | 舗装の厚さ(mm) | 結合材の種類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 常温系 | 塗布工法 | 車路 | 50 | アスファルト混合物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 種 別 | 種 類 | 備 考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 加熱アスファルト混合物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 再生加熱アスファルト混合物 | 密粒度アスファルト混合物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 項目 | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------|--|-----------|-----------|-----------|-------------|---------|-----|-----------|-------|-------|-----|------|--------|-----|-----|-----------|-----------|-----|----|----|----|------|----|-------------------|----|---|----|---|---|---------|-----|-----------|--|----|---|----|---|---|---------|-----|-----------|--|------|----|--------|--------|----|-----|------------|---------|-------|----|
| ⑤ コンクリート舗装 | <p>◎設計基準強度(24 N/mm²), スラμπ(8), 粗骨材の最大寸法(25)</p> <p>◎表面の仕上げ(平坦仕上げ 勾配1.0%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>部 位</th> <th>舗装の厚さ(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カラーコンクリート舗装</td> <td>駐輪場</td> <td>150</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎目地材は注入の場合(低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ)による。</p> <p>◎目地</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th> <th>目地の種類</th> <th>目地の間隔</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐輪場</td> <td>収縮目地</td> <td>3m程度ごと</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎溶接金網は使用(する ・ しない).</p> <p>◎コンクリート版の厚さは、型枠据付後、水系又はレベルにより測定する。</p> <p>◎舗装の平坦性は、通行の支障となる水たまりを生じない程度とする。</p> <p>◎表層の厚さは、設計厚さを下回らないこととする。</p> <p>◎厚さ()</p> <p>◎切取り試験を(行う ・ 行わない)</p> <p>◎開粒度アスファルト混合物の抽出試験は(行う ・ 行わない).</p> <p>◎舗装の平坦性は、著しい不陸がないものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>部 位</th> <th>クッション材の種類</th> <th>クッション材の厚さ</th> <th>目地材</th> <th>種類</th> <th>寸法</th> <th>形状</th> <th>表面加工</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装</td> <td>車路</td> <td>砂</td> <td>20</td> <td>砂</td> <td>N</td> <td>100×300</td> <td>長方形</td> <td>ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>通路</td> <td>砂</td> <td>30</td> <td>砂</td> <td>N</td> <td>100×300</td> <td>長方形</td> <td>ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>◎舗装の平坦性は、歩行に支障となる段差がないものとする。</p> <p>◎砂利敷きの種別は(・ A種 ・ B種)とする。</p> <p>◎路面標示位置、間隔は図示による。</p> <p>◎材料：種類(ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ3種1号), 色(白), 塗布幅(図示), 塗布厚さ(1.0mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>色彩</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>進入路</td> <td>ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ</td> <td>300×300</td> <td>60.80</td> <td>黄色</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎ブロックパターンはJIS T 9251による。 ◎設置位置：図示</p> <p>◎舗装版切断に伴い発生する排水は汚泥に該当するため、関係法令等に基づき適正に処理すること。</p> | 舗装の種類 | 部 位 | 舗装の厚さ(mm) | カラーコンクリート舗装 | 駐輪場 | 150 | 部 位 | 目地の種類 | 目地の間隔 | 駐輪場 | 収縮目地 | 3m程度ごと | 区 分 | 部 位 | クッション材の種類 | クッション材の厚さ | 目地材 | 種類 | 寸法 | 形状 | 表面加工 | 備考 | ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装 | 車路 | 砂 | 20 | 砂 | N | 100×300 | 長方形 | ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ | | 通路 | 砂 | 30 | 砂 | N | 100×300 | 長方形 | ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ | | 施工箇所 | 種類 | 寸法(mm) | 厚さ(mm) | 色彩 | 進入路 | ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ | 300×300 | 60.80 | 黄色 |
| 舗装の種類 | 部 位 | 舗装の厚さ(mm) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カラーコンクリート舗装 | 駐輪場 | 150 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 部 位 | 目地の種類 | 目地の間隔 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 駐輪場 | 収縮目地 | 3m程度ごと | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 区 分 | 部 位 | クッション材の種類 | クッション材の厚さ | 目地材 | 種類 | 寸法 | 形状 | 表面加工 | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ舗装 | 車路 | 砂 | 20 | 砂 | N | 100×300 | 長方形 | ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 通路 | 砂 | 30 | 砂 | N | 100×300 | 長方形 | ｼｮｯﾄﾌﾞﾗｽﾄ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 施工箇所 | 種類 | 寸法(mm) | 厚さ(mm) | 色彩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 進入路 | ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ | 300×300 | 60.80 | 黄色 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. 透水性アスファルト舗装 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑦ ブロック系舗装 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. 砂利敷き | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. 区画線 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑩ 視覚障がい者誘導ブロック | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ⑪ 排水の処理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

23章 植栽工事

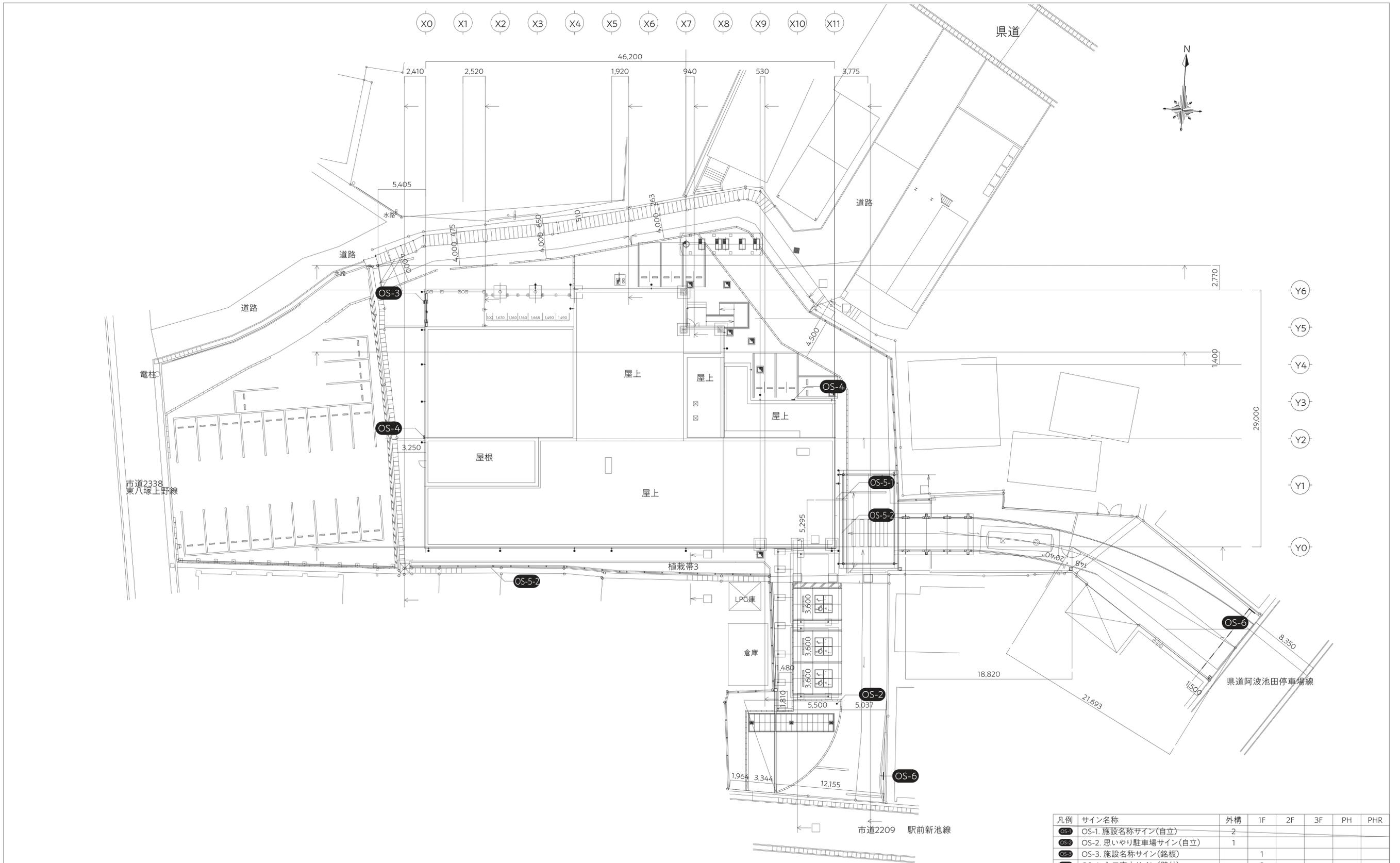
| 項目 | 特記事項 |
|-------------------|---|
| 1. 一般事項 | <p>◎土壌の水素イオン濃度指数(pH)の試験は(・ 行う ○ 行わない).</p> <p>◎土壌の電気伝導度(EC)等の試験は(・ 行う ○ 行わない).</p> <p>◎植栽基盤整備工法は(・ A ・ B ・ C ○ D)種とする。</p> <p>◎土壌改良材は(○ 適用する ・ 適用しない). 材料(ﾊﾞｰｸ堆肥)使用量(50L/m²)</p> <p>◎有効土層の面積及び厚さは図示による。</p> <p>◎排水設備は(・ 暗渠 ・ 開渠 ・ 排水層 ・ 縦穴排水)を設ける。</p> |
| 2. 植栽基盤 | <p>◎樹木の樹種、寸法、株立数及び刈込みものは図示による。</p> <p>◎植え込み用土は(・ 現場発生土 ○ 客土)とする。 客土は(畑土程度)とする。</p> <p>◎支柱丸太及び添え木丸太は、加圧式防腐処理丸太材(AQ処理)とする。</p> <p>◎支柱の形式は(添え柱形 ・ 鳥居形 ・ ハツ掛け形 ・ 布掛け形 ・ ワイヤ掛け形 ・ 地下埋設形)とする。</p> <p>◎幹巻き用材料は、(幹巻き用テープ ・ わら及びこも)とする。</p> <p>◎新植樹木の枯補償期間は、引渡の日から(1 年)とする。</p> <p>◎移植樹木の枯損処置期間は、引渡の日から(年)とする。</p> |
| 3. 植 樹 | <p>◎芝張り ・芝の種類は(こうらい芝 ・ 野芝)とし、工法は(目地張り ・ べた張)とする。 ・客土は()とする。</p> <p>◎吹付けは種 ・吹付け面の土性及び硬度の測定は(行う ・ 行わない). ・種子の種類は()とする。 ・被膜養生は(行う ・ 行わない). ・養生剤の散布量は0.8~1.0L/m²とし、全面散布する。</p> <p>◎枯補償期間は、引渡の日から(年)とする。</p> |
| 4. 芝張り、吹付けは種及び地被類 | |

| | | | | |
|--|-------------|--|-------------|---|
| | 徳島県土木整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-013 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第61057号 株式会社 宮 建築 設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | | ●図面名 特記仕様書-12 | ●縮尺 NON | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |



付近見取図

| | | | | |
|--|------------|---|----------------------|--|
| | 徳島県土整備部営繕課 | ●工事名 R6営繕 第2三好寮・三好市地域利便性施設 (仮称) 三・池田 新築工事建築(2) | ●図面番号 A-014 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号 株式会社 宮 建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625-5505 (代) |
| | | ●図面名 付近見取図 | ●縮尺 A1:-/- A3:-/- | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |



サイン外構配置図 1/200

| 凡例 | サイン名称 | 外構 | 1F | 2F | 3F | PH | PHR |
|--------|----------------------|----|----|----|----|----|-----|
| OS-1 | OS-1. 施設名称サイン(自立) | 2 | | | | | |
| OS-2 | OS-2. 思いやり駐車場サイン(自立) | 1 | | | | | |
| OS-3 | OS-3. 施設名称サイン(銘板) | | 1 | | | | |
| OS-4 | OS-4. 入口案内サイン(壁付) | | 2 | | | | |
| OS-5-1 | OS-5-1. 入口館名表示(SUS) | | 1 | | | | |
| OS-5-2 | OS-5-2. 入口館名表示(シート) | | 2 | | | | |
| OS-6 | OS-6. 施設名称サイン(壁付) | 2 | | | | | |

| | | | |
|-------------|---|---------------------------|---|
| 徳島県県土整備部営繕課 | ● 工事名 R5営繕 第三好家・三好市地域利便性施設 (仮称) 三池田新築工事建築(2) | ● 図面番号 A-015 | 1級建築士事務所 徳島県知事登録第11050号 株式会社 宮建築設計 徳島市福島1丁目5番6号 TEL (088) - 625 - 5505 (代) |
| | ● 図面名 サイン外構配置図 | ● 縮尺 A1:1/200 A3:1/400 | 管理建築士 清水 康代 1級333707 |